

授業科目名： 材料加工	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下 大介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 木材、樹脂素材、金属素材の違いと特徴を理解することができる。 2. 材料の特性を理解し、設計・製図をすることができる。 3. 材料に応じた工具・工作機械を適切に使って加工することができる。 			
授業の概要			
<p>技術教育において、ものづくりの基礎として加工技術の理解が重要である。その際には、使用する材料の特徴・特性・加工法などを把握しておく必要があり、それらを考慮した設計・図面が必要となる。本科目では、木材および金属・樹脂素材の特性や違いについて学び、加工や組み立てを行うことで精度や表面性状などに関する知識を習得する。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：材料加工の概要。講義ガイダンスおよび材料について理解する。</p> <p>第2回：材料の特性について、種類・均質性・強度について学ぶ。</p> <p>第3回：材料の力学的性質。強度の評価方法や材料・形状による違いを理解する。</p> <p>第4回：木材について①。種類と加工法について理解する。</p> <p>第5回：木材について②。手作業工具と工作機械について理解する。工具として、のこぎり・カンナ・やすりを、工作機械として、旋盤・NCフライス盤・レーザーカッターについて学ぶ。</p> <p>第6回：木材について③。表面仕上げと塗装について理解する。</p> <p>第7回：木材加工について①。2つ以上の部品により構成される製作品を考える。 (グループディスカッション)</p> <p>第8回：木材加工について②。部品それぞれについて、材料選定と図面作成を行う。</p> <p>第9回：木材加工について③。工作機械を用いて部品加工を行う。</p> <p>第10回：木材加工について④。手作業工具を用いて部品加工を行う。</p> <p>第11回：木材加工について⑤。組み立てと調整を行う。</p> <p>第12回：木材加工について⑥。仕上げと塗装を行う。</p> <p>第13回：木材以外の加工について、工作機械および手作業工具による加工を行い、材料特性と加工技術の違いを理解する。</p> <p>第14回：これまでの講義で学んだ内容についてプレゼンテーションを行う。</p>			
定期試験			
テキスト 毎回の配布資料により実施する。			
参考書・参考資料等			
職業能力開発総合大学能力開発研究センター編 木材加工系実技教科書/厚生労働省認定教材			
学生に対する評価			
授業への取り組み60%、定期試験40%の合計で評価する。			

授業科目名： 材料力学 I	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名： 寺西 高広、郭 光植 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 部材に軸荷重とねじりが働く場合の強度設計ができる。			
授業の概要 機械や構造物を設計する際、作用する荷重に対して使用する材料が十分な強度を保持し、破損または過度の変形が生じていないことを適切に評価する必要がある。本講義では、主に単純な荷重を受ける一様断面の部材に発生する引張り応力、せん断応力、ひずみなどについての基本を学ぶ。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：力のつり合い（平衡条件） 第2回：応力とその単位 第3回：ひずみ、せん断応力、フックの法則 第4回：ヤング率、これまでの演習問題を実施 第5回：ポアソン比 第6回：応力-ひずみ線図、安全係数 第7回：トラスに生じる荷重 第8回：これまでの内容について復習し、演習問題を実施 第9回：これまでの内容について復習し、中間試験を実施 第10回：中間試験の返却と問題について解説 ねじり応力 第11回：ねじり応力に関する演習問題と断面二次極モーメント 第12回：ねじれ角 第13回：不静定問題について解説 第14回：まとめと演習問題を実施 定期試験			
テキスト 材料力学（久池井茂他12名 著、実教出版 ISBN9784407332827）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験（40%）、期末試験（60%）により評価し、60点以上を合格とする。			

授業科目名： 材料力学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名： 寺西 高広、郭 光植 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 任意の荷重を受ける機械や構造物の強度設計ができることを達成目標とする。ISBN			
授業の概要 機械や構造物を設計する際、作用する荷重に対して使用する材料が十分な強度を保持し、破損または過度の変形が生じていないことを適切に評価する必要がある。本講義では、主に単純な荷重を受ける一様断面の部材に発生する曲げ応力などについて学習する。また、「軽量化と安全」に関連する具体的製品などを取り上げ、その構造面での理解を広げることを目的としている。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：力のつり合い，引っ張り応力，ひずみ，フックの法則 第2回：曲げモーメントおよびせん断力 第3回：集中荷重を受ける片持ちはりのせん断力線図と曲げモーメント線図 第4回：複数の荷重を受ける片持ちはりのせん断力線図と曲げモーメント線図 第5回：等分布荷重を受ける片持ちはりのせん断力線図と曲げモーメント線図 第6回：集中荷重を受ける両端支持はりのせん断力線図および曲げモーメント線図 第7回：これまでの内容の演習を実施 第8回：前半の振り返りと中間試験を実施 第9回：中間試験の解説，曲げ応力 第10回：長方形断面の断面二次モーメント 第11回：円形断面の断面二次モーメント 第12回：集中荷重を受けるはりのたわみ 第13回：等分布荷重を受けるはりのたわみ 第14回：これまでのまとめと演習を行う。 定期試験			
テキスト 材料力学（久池井茂他12名 著、実教出版 ISBN9784407332827）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験（40%）、期末試験（60%）により評価し、60点以上を合格とする。			

授業科目名： 材料力学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺西 高広 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 様々な種類の荷重が、異なる環境で作用する際の強度設計ができることを達成目標とする。			
授業の概要 機械や構造物を設計する際、破壊しないように、まず材料力学により応力を計算して寸法を決める。しかし、例えば繰返し応力が加われば疲労破壊を考慮しなければならず、またき裂が発生した場合や周りの温度が高い場合、腐食環境の場合など実際の使用条件に合わせた設計方法が必要になる。本科目では疲労破壊、衝撃破壊、クリープ破壊などの原因やそれらのメカニズムについて知ることができ、実際の使用に合わせた合理的な機械設計ができるようになる。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：組み合わせ応力について 第2回：細長い柱の座屈について 第3回：応力集中について 第4回：脆性破壊、延性破壊、最弱リンク説 第5回：材料試験の概要、原子、理想の強度 第6回：転位、すべり、靱性、引張り、圧縮 第7回：せん断、曲げ、ねじり荷重を加えた場合の応力と変形、列車の事故例 第8回：これまでのまとめと中間試験 第9回：き裂先端近傍の応力 第10回：応力拡大係数 第11回：無次元化応力拡大係数 第12回：疲労強度、疲労き裂の伝ば 第13回：変動荷重の影響、応力腐食割れ、クリープ破壊 第14回：き裂の検出方法、フェイルセーフ、損傷許容設計 定期試験			
テキスト 絵とき 破壊工学 基礎のきそ（谷村康行著、日刊工業新聞社 ISBN978-4-526-06225-4）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験（40%）、期末試験（60%）により評価し、60点以上を合格とする。			

授業科目名： 機械加工学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村田 光昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・切削加工の理論的背景と知識に基づき、適切な切削条件を選定する能力を養う。 ・切削に用いる工具と材種、被削材、切削油剤について、それぞれの特徴を説明できる。 ・切削において発生する諸問題について、それぞれの原因と対策を説明できる。 			
授業の概要			
<p>金属を目的の形状に仕上げるための加工方法には、様々な種類がある。この授業では、それらの中で特に切削加工について、必要な知識と理論を修得する。各種工作法の解説と、それらの中での切削加工の位置関係、切削理論の基礎、切削動力、各種切削条件、切削温度、工具損耗と工具寿命について講義を行う。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：切削加工の概要（1） 機械加工法とその目的、種々の加工法と比較した場合の切削加工の特徴について説明する。			
第2回：切削加工の概要（2） 切削用工作機械、工具材料および測定装置について、それぞれの種類と特徴を説明する。			
第3回：切削加工の概要（3） 切削の対象となる主な被削材および利用される切削油剤について、それぞれの種類と特徴を説明する。			
第4回：切削理論の基本（1） 切削機構、切削比、二次元切削および三次元切削などについて基礎事項を説明する。			
第5回：切削理論の基本（2） 切削条件変化とせん断角の関係について説明する。			
第6回：切削理論の基本（3） せん断変形による切屑の生成機構とその形態について基礎事項を説明する。			
第7回：切削加工の概要ならびに切削理論についてのまとめと試験 第6回までに行った内容についての総括・復習を行い、その後、中間試験を実施する。			
第8回：切削抵抗（1） 切削により工具-工作物間で発生する切削抵抗の力学的関係について、最も単純な二次元切削モデルを用いて説明する。			
第9回：切削抵抗（2） 切削抵抗を測定する手法および切削諸条件による切削抵抗への影響について説明する。			
第10回：切削抵抗（3） 切削抵抗と切削切れ刃各緒言の関係について説明する。			
第11回：構成刃先と切削条件 軟金属の低速切削で発生する構成刃先について、特徴と防止対策および積極的な応用事例			

について説明する。また、切削における主な切削条件について基本事項を説明する。

第12回：仕上げ面性状

切削加工により仕上げ面に生成される「粗さ」についてその発生機構と評価方法を説明し、さらに工具-工作物間の相対運動により発生する「理論粗さ」について説明する。

第13回：工具損耗・摩耗と工具寿命（1）

工具の損耗と摩耗について、発生機構と分類および防止対策について説明する。

第14回：工具損耗・摩耗と工具寿命（2）

工具損耗および摩耗の測定方法について説明する。また、工具寿命についてその判定基準と寿命方程式について説明する。

定期試験

テキスト

図解 よくわかる機械加工（武藤一夫 著、共立出版）

参考書・参考資料等

JSMEテキストシリーズ 加工学Ⅰ－除去加工－（日本機械学会 編、丸善）

学生に対する評価

中間ならびに期末試験（50%）、レポート課題（50%）を基本に総合的に評価する。

授業科目名： 機械製図	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：村田 光昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
機械製図では、製図に関する基本的な約束事項（主に J I S 規格）について講義および実習を行うことで、図面を正しく描き、かつ図面を誤りなく読むことができることを目指す。			
授業の概要			
実習を通して、図面から空間認識を行い、また、部品等を図面に描く。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：ガイダンス 担当教員の紹介、授業内容の説明、製図用具の説明			
第2回：基礎製図(濃淡) トレース紙を用いて線の濃さを一定にする実習			
第3回：基礎製図(線の種類) 線の種類とその用途の説明および実習			
第4回：基礎製図(円弧、矢印) 直線と円弧、R、C、矢印を描く実習			
第5回：基礎製図(文字) 製図用文字の練習			
第6回：基礎製図(用器画法) 定規、コンパスを用いて平面図形を描く実習			
第7回：基礎製図(曲線) 雲形定規を用いて各種曲線を描く実習			
第8回：モデル製図(スケッチ) 多面体立法モデルをスケッチし、それをもとに製図実習			
第9回：モデル製作(展開図1) モデル製図図面から展開図を描き製作する実習			
第10回：モデル製図(寸法記入) 多面体立体モデルを例に寸法記入法の習得			
第11回：モデル製作(展開図2) モデル製図図面から展開図を描き製作する実習			
第12回：機械製図(Vブロック) Vブロックを例に寸法記入法、表面粗さの指定法の習得			
第13回：機械製図(第3角法) 見取図を第3角法に変換する実習			
第14回：機械製図で学んだことの総チェック			
定期試験			
テキスト			
JISにもとづく機械設計製図便覧（大西清 著、理工学社）			
図面ってどない描くねん2！（山田学 著、日刊工業新聞社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
製図（70%）、期末テスト（30%）として評価し、60%以上で合格とする。			

授業科目名： 機械材料	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：郭 光植 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 材料加工（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 機械に用いられる材料にはどんなものがあり、それぞれの材料の特性はどういうものかを理解する。			
授業の概要 機械に用いられる材料、特に金属材料の全般的理解が得られるような講義を行う。金属の一般論から鉄鋼材料、アルミニウム合金、銅合金、その他の材料など全般にわたって講義する。その際、一般機械、自動車、航空機、鉄道、船舶、建築、水周り、高温など、どのような場所、あるいは部材として用いられるか、また必要とされる性質は何か、どのような目的でどの材料が選択されるかなど、実際の使用と材料の選択の関係が理解できるような講義を行う。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：機械材料の機械的性質について説明する。 第2回：材料の試験について説明する。 第3回：材料の検査について説明する。 第4回：原子の構造、金属の結晶構造、物質の状態変化について説明する。 第5回：平衡状態図、金属の変形、鉄鋼ができるまで、炭素鋼の性質について説明する。 第6回：炭素鋼の平衡状態図、炭素鋼の熱処理について説明する。 第7回：炭素鋼の種類について説明する。 第8回：合金鋼の成分、種類、性質について説明する。 第9回：これまでの復習と試験を行う。 第10回：鋳鉄の性質と種類について説明する。 第11回：アルミニウムおよびその合金の性質、種類、用途について説明する。 第12回：銅とその合金について性質、概略、種類について説明する。 第13回：その他の金属材料として、亜鉛、すず、鉛とその合金、チタンとその合金、マグネシウムとその合金、及びニッケル合金について性質および用途を説明する。 第14回：プラスチックの種類と性質、複合材料について説明する。セラミックスの種類と用途、応用例などについて説明する。			
定期試験			
テキスト 絵ときでわかる機械材料 門田和雄 オーム社 ISBN4274202070			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験50%と期末試験50%で評価し、60点以上を合格とする。			

授業科目名： メカトロニクス	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：李 湧権 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電圧と電流の概念を理解しオームの法則を用いた計算ができる ・キルヒホッフの法則を用いた直流回路の計算ができる ・交流を表現するパラメータの意味を理解する ・DCモータの基本的な特性を理解し負荷に応じて適切に選定できる ・半導体素子の基本的な動作を理解する ・簡単なシーケンス図を読みとりシーケンス回路の動作を理解できる 			
<p>授業の概要</p> <p>現在では自動車や家電などの様々な製品において電気電子回路により機械を制御するメカトロニクス化が当たり前になっている。そのため機械製品の設計においても4力学に代表される機械工学の知識だけでなく、電気電子工学や制御の知識が必須となっている。本講義では電気電子工学の基本とメカトロニクス機器に用いられる要素技術について学習する。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：メカトロニクスの概要と電気回路の基礎、抵抗</p> <p>第2回：合成抵抗とキルヒホッフの法則</p> <p>第3回：コイル、コンデンサ、交流の基礎</p> <p>第4回：ダイオードとトランジスタ</p> <p>第5回：オペアンプ</p> <p>第6回：DCモータの特性と制御</p> <p>第7回：前半のまとめと中間試験</p> <p>第8回：モータの選定法1（負荷がモータ軸に直結される場合）</p> <p>第9回：モータの選定法2（減速機を介する場合）</p> <p>第10回：デジタル論理回路</p> <p>第11回：マイコンの基礎</p> <p>第12回：シーケンス制御の基礎、自己保持回路</p> <p>第13回：タイマを使った回路(オンディレイ回路、ワンショット回路、フリッカ回路、順序回路)</p> <p>第14回：メカトロニクスで使用するセンサの紹介と講義内容に関連した発展的な問題演習と解説</p> <p>定期試験</p>			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 メカトロニクス入門（初澤毅 著、培風館） 図解でわかるはじめての電気回路（大熊康弘 著、技術評論社）			
学生に対する評価 中間試験(40点)、期末試験(60点)で評価する。			

授業科目名： メカトロニクス実習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名： 貞方 敦雄、李 湧権
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 直流回路に関する基本的な特性を測り、結果を説明できる ・ 交流回路に関する基本的な特性を測り、結果を説明できる ・ 電子回路に関する基本的な特性を測り、結果を説明できる ・ 各種モータに関する基本的な特性を測り、結果を説明できる ・ シーケンス制御に関する基本的な回路を組み、動作を説明できる 			
授業の概要			
自動車や家電製品などは機械工学及び電気電子工学が融合したメカトロニクスの基礎を身につけることが機械や電気電子工学の技術者となるためには必要である。本授業では、メカトロニクスに関する各種実習を通じて基礎の定着と実践力を養う。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回： 直流回路実習1: キルヒホッフの法則を用いた直流回路解析（基礎）			
第2回： 直流回路実習2: キルヒホッフの法則を用いた直流回路解析（応用）			
第3回： 交流回路実習1: RLC回路の交流回路解析（基礎）			
第4回： 交流回路実習2: RLC回路の交流回路解析（応用）			
第5回： 電子回路実習1: トランジスタを用いた増幅回路（基礎）			
第6回： 電子回路実習2: トランジスタを用いた増幅回路（応用）			
第7回： 電子回路実習3: オペアンプを用いた増幅回路（基礎）			
第8回： 電子回路実習4: オペアンプを用いた増幅回路（応用）			
第9回： デジタル回路実習1: 組合せ回路と順序回路（基礎）			
第10回： デジタル回路実習2: 組合せ回路と順序回路（応用）			
第11回： マイコン実習1: マイコン及びセンサの活用（基礎）			
第12回： マイコン実習2: マイコン及びセンサの活用（応用）			
第13回： モータ制御実習1: DCモータ回転数制御（基礎）			
第14回： モータ制御実習2: DCモータ回転数制御（応用）			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 メカトロニクス入門（初澤毅 著、培風館） 図解でわかるはじめての電気回路（大熊康弘 著、技術評論社）			
学生に対する評価 演習・実習評価（40点）、定期試験（60点）で評価する。			

授業科目名： 機械工学実験	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：赤坂 亮、 寺西 高広、松下 大介 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>機械工学の基盤をなす材料力学、流体力学及び熱力学に関する実験を行う。到達目標は以下の二点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の目的および背景となる理論を理解した上で、チームで協力しながら計画的に実験を進めることができる。 2. 実験で得たデータを整理し、適切な文章表現および図表等を用いてレポート作成ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>専門の講義科目で学んだ内容に関連する実験を行うことで講義内容に対する理解を深めるとともに、実験、データ整理、レポート作成の要領とチームで協力して取り組む能力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：授業内容説明，レポートの書き方指導（寺西，松下，赤坂） 第2回：材料力学1 各種材料の引張試験（寺西） 第3回：材料力学2 ヒノキはりのたわみ実験（寺西） 第4回：材料力学3 ヒノキはりの破壊実験（寺西） 第5回：材料力学4 シミュレーション（引張）（寺西） 第6回：流体力学1 流動様相の観察とレイノルズ数との関係（松下） 第7回：流体力学2 管路におけるエネルギー損失の評価（松下） 第8回：流体力学3 ポンプの性能試験（松下） 第9回：流体力学4 水車の性能試験（松下） 第10回：熱力学1 空気の比熱比の測定（赤坂） 第11回：熱力学2 断熱変化における仕事量の測定（赤坂） 第12回：伝熱工学1 二重管式熱交換器の熱通過率の測定（赤坂） 第13回：伝熱工学2 強制対流熱伝達の予測（赤坂） 第14回：実験結果のプレゼンテーション</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 実験テーマごとに配布する資料			
参考書・参考資料等 安藤常世ほか「機械工学実験法」日刊工業新聞社			
学生に対する評価 各実験テーマにおいてレポート等の課題を100点満点で評価し、全テーマの平均点で評価する。			

授業科目名： 電気電子基礎実験Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：末吉 哲郎、 穂本(福田) 枝里子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 正確に各種基本測定器の取り扱いができる</p> <p>(2) 実験グループ内で協力して必要なデータを収集できる</p> <p>(3) 基本的な法則等を理解し、実験によって得られた結果を実験レポートとしてまとめられる</p> <p>(4) 表および図（グラフ）を的確に描くことができる</p>			
授業の概要			
<p>電気・電子・情報通信工学は、情報・デバイス・エネルギーに関する科学の最新成果を応用する工学である。本科目では、電磁気学、電気回路、電子物性などで学ぶ基本的な法則、原理、特性を実際に行うことにより確認し、理解を深めることを目的とする。電気系技術者に必要な応用力を会得するには、教科書のみによる知識では必ずしも十分でなく、種々の電磁現象について実際に体験し、直感的なイメージを養うことが重要となる。そのイメージが得られるような実験テーマを選定している。なお、実験は少人数グループに分かれて実施し、グループで協力して実験を進める。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：ガイダンス：レポートの書き方の基本（表のまとめ方、グラフの描き方を含む）やブリーフィングの進め方などの説明・予備実験</p> <p>第2回：テーマ1：ポテンショメータの利用法</p> <p>第3回：テーマ2：基本法則</p> <p>第4回：レポート指導：ブリーフィングを行い、指導員からインタビューを受ける</p> <p>第5回：テーマ3：定格電力と最大電力供給の法則</p> <p>第6回：テーマ4：回路解析法</p> <p>第7回：レポート指導：ブリーフィングを行い、指導員からインタビューを受ける</p> <p>第8回：テーマ5：ホイートストンブリッジとΔ-Y変換</p> <p>第9回：テーマ6：オシロスコープによる直流・交流電圧測定</p> <p>第10回：レポート指導：ブリーフィングを行い、指導員からインタビューを受ける</p> <p>第11回：テーマ7：交流回路素子の測定</p> <p>第12回：テーマ8：直流交流回路の位相差測定</p> <p>第13回：レポート指導：ブリーフィングを行い、指導員からインタビューを受ける</p> <p>第14回：まとめとテスト：これまでの内容を総括し、理解度を確認するテストを行う</p>			
テキスト 実験テーマごとに実験テキスト等を配付する。配付方法はガイダンスにて説明する。			
参考書・参考資料等 個別に指定する。			
学生に対する評価			
測定器の取り扱い方試験（20%）、実験レポート等（80%）で評価する。			

授業科目名： 電気電子基礎実験Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 宜輝、西寄 照和 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)基本的な法則等を理解し、与えられたデータを実験レポートとしてまとめることができる。 (2)得られた結果について、自分の言葉で説明できる。			
授業の概要			
電気・電子・情報通信工学は情報通信・デバイス・エネルギーに関する科学の最新成果を応用する工学である。本科目では、電磁気学、電気回路、電子物性などで学ぶ基本的な法則、原理、特性を実際に実験を行うことにより確認し、理解を深めることを目的とする。電磁気学、電気・電子回路、電子物性、電子デバイス、情報通信用論理IC、各測定器等に関する基本的知識を身につけることができる。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：ガイダンス			
第2回：（テーマ1）交流回路の周波数特性1			
第3回：（テーマ1）交流回路の周波数特性2 レポート指導と調査研究：（レポートの提出）ブリーフィング、指導員からのフィードバック			
第4回：（テーマ2）ダイオードの特性測定1			
第5回：（テーマ2）ダイオードの特性測定2 レポート指導と調査研究：（レポートの提出）ブリーフィング、指導員からのフィードバック			
第6回：（テーマ3）トランジスタの特性測定1			
第7回：（テーマ3）トランジスタの特性測定2 レポート指導と調査研究：（レポートの提出）ブリーフィング、指導員からのフィードバック			
第8回：（テーマ4）増幅回路の測定1			
第9回：（テーマ4）増幅回路の測定2 レポート指導と調査研究：（レポートの提出）ブリーフィング、指導員からのフィードバック			
第10回：（テーマ5）共振回路1			
第11回：（テーマ5）共振回路2 レポート指導と調査研究：（レポートの提出）ブリーフィング、指導員からのフィードバック			
第12回：（テーマ6）論理回路1			
第13回：（テーマ6）論理回路2 レポート指導と調査研究：（レポートの提出）ブリーフィング、指導員からのフィードバック			
第14回：まとめとテスト：講義内容を総括し、理解度を確認するテストを行う。			
定期試験			
テキスト 各講義ごとに、実験課題等を提示する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
実験レポートの完成度(80%)、まとめテスト・定期試験(20%)の比率で評価する。			

授業科目名： 電気エネルギー概論	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校 技術） 選択科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：今坂 公宣 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 電力システムの各要素の概要を理解し、電気機器の運用や系統制御の現状、日本・世界のエネルギー状況に関する基礎的な内容について説明することができる。 電気電子材料についての基礎知識を習得できるようになる。 			
授業の概要			
電気エネルギー概論では、専門科目を理解する上で重要な専門基礎要素である電力・エネルギーおよび電気電子材料などについて重点的に講義する。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：ガイダンス：講義概要、講義の進め方、本講義の位置付けなどの説明			
第2回：高圧配電線の概要			
第3回：低圧配電線の概要			
第4回：配電線の各種機器			
第5回：日本のエネルギー政策			
第6回：世界のエネルギー資源の動向			
第7回：講義内容(前半)のまとめおよび小テスト			
第8回：電気電子材料(1) 導電性材料の種類と性質			
第9回：電気電子材料(2) 半導体材料の種類と性質			
第10回：電気電子材料(3) 絶縁材料の種類と性質			
第11回：電気電子材料(4) 磁性材料の種類と性質			
第12回：電気電子材料(5) 新しい電気電子材料			
第13回：講義内容(後半)のまとめおよび小テスト			
第14回：講義内容(全体)のまとめおよび小テストのフィードバック			
テキスト 電気・電子材料（水谷 照吉 著、オーム社）			
参考書・参考資料等 適宜、紹介する。			
学生に対する評価			
調査課題（20%）および小テスト（80%）で評価する。			

授業科目名： 工業概論	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：梅野 貴俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 幅広い学問的知識を習得し、地球環境に配慮できる素養を身につける。工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の存在を把握し、現代社会における工業の意義や役割を理解する。また、工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。			
授業の概要 一口に「工業」と言っても、その内容は多岐に亘る。自分の専攻する分野だけでなく、その他の分野に関しても、基礎的な知識を身につけ、技術の存在を把握し、現代社会における工業の意義や役割を理解した上で、幅広い知識をもつことで、より深い考察ができるようになる。この授業では、工業技術の諸問題を主体的、合理的に理解し、社会の発展を図る創造的な能力と、実践的な態度を育てることを目的に、機械、電気、情報、建築、生物学等の各分野について、講義を行う。「工業」の教員免許取得を目指す学生は履修が必要となる。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス（工業概論における講義の進め方），工業教育に関する調査を行う。 第2回：日本と世界の産業と工業について学ぶ。 第3回：日本の製造業について学び，工業教育の必要性を研究する。 第4回：工業分野の仕事内容を理解し、「工業」の教育課程、学科編成や科目編成，年間授業計画の構成を研究する。 第5回：「工業」科目の構成、意義を研究する。 第6回：工業を中心とする生産方式の変遷や情報社会における工業教育の在り方を分析する。 第7回：安全衛生管理について研究する。 第8回：工業製品の知的財産権について研究する。 第9回：工業デザインについて研究する。 第10回：工業の人材育成について研究する。 第11回：工業の生産システムについて研究する。 第12回：日本と世界の工業分野に関する規格について研究する。 第13回：工業分野に必要な情報知識，確率統計知識について学ぶ。 第14回：工業分野に必要な，ものづくりを創造する能力育成法を研究する。 定期試験			
テキスト 講義内容に適したテキストを配付する。			
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領解説 工業編（実教出版）			
学生に対する評価 中間・期末試験（60%），工業に関する課題レポート（40%）で評価する。			

授業科目名： 制御工学	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：李 湧権 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な関数のラプラス変換、逆ラプラス変換ができる。 ・ 基本的な関数の線形結合および微分積分で表現される関数のラプラス変換、逆ラプラス変換ができる。 ・ ラプラス変換と逆ラプラス変換を用いて線形微分方程式を解くことができる。 ・ 入出力関係を表す微分方程式から伝達関数を求めることができる。 ・ 伝達関数を用いて応答を計算することができる。 ・ 伝達関数の極から安定性を判別することができる。 ・ ブロック線図の結合法則と等価変換を用いて伝達関数をまとめることができる。 ・ ボード線図から位相余裕、ゲイン余裕を求めて安定性を判別することができる。 ・ ステップ応答から制御系の特性を評価することができる。 			
授業の概要 <p>本講義では、古典制御理論の基礎としてラプラス変換や伝達関数を中心としたシステム解析手法を学び、機械システムやモータ制御など広範な分野に応用できる基盤知識を修得します。これは、CP1「数学や物理の基礎から、ロボット・メカトロニクスを含む機械工学を段階的に学ぶための教育」に対応し、基礎理論を段階的に学ぶことで、機械工学・メカトロニクス領域における問題解決に必要な素養を身につけることをめざします。また、電機メーカーでのモータ制御技術研究開発の実務経験を交えた講義により、座学だけでなく実践的な観点も取り入れる点はCP2「座学のみならず演習・実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムによる教育」やCP3「現場で役立つ実践力を育成する教育」と強く関連しています。</p> <p>さらに、このような理論と実践を融合した学習を通じて、DP1「機械・ロボット・メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎的な数理学、機械工学の基礎及びこれらを産業界で生かすことができる」能力を養うとともに、問題解決力を身につけることはDP2「技術者として必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を發揮できる」にも寄与します。機械システムやメカトロニクス技術に不可欠な制御理論を修得することで、卒業後の産業界における多様な課題解決に貢献できるエンジニアの育成を目指します。</p>			
授業計画（1コマ100分） <p>第1回：制御系の基礎とラプラス変換 第2回：ラプラス変換の様々な性質 第3回：逆ラプラス変換 第4回：線形微分方程式解法へのラプラス変換の適用 第5回：伝達関数と代表的な伝達要素、伝達関数を用いた応答計算 第6回：伝達関数の極と安定性 第7回：前半のまとめ 第8回：中間試験と解答解説 第9回：ブロック線図の描き方、基本結合、等価変換 第10回：等価変換を用いたブロック線図の簡略化 第11回：伝達関数と周波数応答関数 第12回：ボード線図、位相余裕とゲイン余裕 第13回：ステップ応答と制御系の性能 第14回：講義内容に関連した発展的な問題演習まとめの演習と解説</p>			

定期試験
テキスト 基礎制御工学 (小林 伸明、共立出版)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 演習課題 (10%)、中間テスト (40%)、定期試験 (50%)

授業科目名： 機械四力学基礎	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名： 松下 大介、郭 光植 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 まず機械工学で取り扱う物理量および単位の概念を理解する。そのうえで、運動を表現する位置、速度、加速度などの概念は法則、力とモーメントや圧力の違いを理解する知識を身につけることで、機械工学の4力学を関わる基本的事項を理解することを目標とする。			
授業の概要 力学に関連した専門科目を学習する上で特に基本となる物理量や単位について正しく理解したうえで、4力学に共通する基礎について講義をし、学生が理解度を確認するために毎回演習を行う。そのうえで、今後の専門科目で用いる基礎的な知識を得る。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：機械工学で扱う物理量と単位、それらの組み合わせについて学び、演習問題に取り組む。 第2回：4力学において出てくる式を必要に応じて変形する手順について学び、演習問題に取り組む。 第3回：直交座標系、円筒座標系を用いる問題や三角関数を用いる意義について学び、演習問題に取り組む。 第4回：座標系や三角関数を用いる応用問題について学び、演習問題に取り組む。 第5回：距離、速度、加速度の関係について学び、演習問題に取り組む。 第6回：距離、速度、加速度に関する応用について学び、演習問題に取り組む。 第7回：これまでの理論や考え方を振り返り、理解できているかを把握する。 第8回：ベクトルの考え方と力やモーメントのつり合いについて学び、演習問題に取り組む。 第9回：力やモーメントのつり合いを含む応用について学び、演習問題に取り組む。 第10回：圧力の定義と力との関係性について学び、演習問題に取り組む。 第11回：圧力と力を含むようようについて学び、演習問題に取り組む。 第12回：外力との違いを理解し、公式等について学び、演習問題に取り組む。 第13回：複合的な力の取り扱いについて学び、演習問題に取り組む。 第14回：これまでの理論や考え方を理解できているかを把握する。 定期試験			
テキスト 専門横断型の科目のため、毎回講義資料を配布する。			
参考書・参考資料等 なし。			
学生に対する評価 毎回の演習（40点）、中間試験または中間課題（30点）、期末試験または期末課題（60点）の合計で評価する。			

授業科目名： 電気回路 I	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：貞方 敦雄、 穂本(福田) 枝里子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 電気回路の性質や定理などを理解し、電気回路の解析に適用することができる。 (2) 回路方程式を正しく立てることができる。			
授業の概要			
この授業では、直流回路を構成する抵抗素子と電源の特性、回路方程式の立て方、及び回路に関する様々な定理の学修を通して線形集中定数システムの特性や解析手法の基礎を修得する。電気回路は、電磁気学や電子回路と同じく、電気、電子、情報通信工学における様々な専門科目における基礎の位置付けである。電気回路に関する基本的な法則と理論を正しく理解し、電気回路を数理的に解析できることを目標とする。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：○直流回路の基礎 電圧と電流、オームの法則 / 抵抗の直並列接続、分圧と分流の法則			
第2回：○演習 1 1回目の直流回路の基礎に関する演習			
第3回：○電源の種類と電力計算の基礎 電圧源と電流源、電力と電力量、最大電力			
第4回：○演習 2 3回目の電源の種類と電力計算の基礎に関する演習			
第5回：○中間試験及び前半のふり回り			
第6回：○Y結線とΔ結線、ブリッジ回路			
第7回：○演習 3 6回目のY結線とΔ結線、ブリッジ回路に関する演習			
第8回：○重ね合わせの理、テブナンの定理			
第9回：○演習 4 8回目の重ね合わせの理、テブナンの定理に関する演習			
第10回：○キルヒホッフの法則			
第11回：○演習 5 10回目のキルヒホッフの法則に関する演習			
第12回：○ループ電流法、ノード電位法			
第13回：○演習 6 12回目のループ電流法、ノード電位法に関する演習			
第14回：○直流回路のふり回り与交流回路への一歩			
定期試験			
テキスト 電気回路（金原榮 著、実教出版）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
試験（50%）、演習（30%）、レポート（20%）			

授業科目名： 電気回路Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 技術） 必修科目（高等学校 工業）	単位数： 2単位	担当教員名：阿部 宜輝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 機械・電気（実習を含む。）（中学校 技術） 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1)回路方程式を正しく立てることができる。</p> <p>(2)交流回路のベクトル図とベクトル軌跡について理解し、説明できる。</p> <p>(3)交流電力、有効電力、無効電力を理解し、力率を求めることができる。</p> <p>(4)二端子対回路のインピーダンス行列を求めることができる。</p>			
授業の概要			
<p>電気回路は、電磁気学や電子回路と同じく、電気、電子、情報通信工学等分野の技術者を目指す人には重要な基礎科目である。本講義では、電気回路Ⅰで修得した知識をもとに、交流回路の法則、解析方法、定理および二端子対回路を学ぶ。電気回路に関する基本的な法則と理論の正しい理解、および電気回路の解析ができることを到達目標とする。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：交流回路1 インピーダンスとアドミタンス</p> <p>第2回：交流回路2 直列接続と並列接続 回路解析</p> <p>第3回：交流回路3 RL直列回路 RC直列回路 ベクトル図 ベクトル軌跡</p> <p>第4回：交流回路4 RL並列回路 RC並列回路 ベクトル図 ベクトル軌跡</p> <p>第5回：交流回路5 共振回路</p> <p>第6回：交流回路6 交流ブリッジ回路</p> <p>第7回：交流電力1 瞬時電力 平均電力</p> <p>第8回：交流電力2 電力の複素数表示（複素電力） 有効電力 無効電力 力率</p> <p>第9回：交流電力3 最大有効電力供給法則 整合</p> <p>第10回：第1回から第9回講義に関する総括とまとめ・レポート（交流回路と交流電力に関する問題）の提示と回答</p> <p>第11回：二端子対回路1 二端子回路と二端子対回路 インピーダンス行列とアドミタンス行列</p> <p>第12回：二端子対回路2 二端子対回路の直列接続と並列接続</p> <p>第13回：二端子対回路3 相互誘導回路 結合係数 理想変成器</p> <p>第14回：電気回路Ⅱの全体総括とまとめ ・全体を通じての総括と重点項目の復習</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 電気回路（金原繁 著、実教出版）			
参考書・参考資料等			
<p>入門電気回路（発展編）（家村道雄、村田勝昭 他著、オーム社）</p> <p>電気学会大学講座 電気回路論（平山 博、大附 辰夫 著、電気学会）</p>			
学生に対する評価			
レポートの完成度（40%）、期末テスト（60%）の比率で評価する。			

授業科目名： 生物育成	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐野 洋一、牛見 宣博
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物育成		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、生物育成の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている生物育成の基礎的な理解を図る。			
授業の概要 本授業科目では、中学校「技術」で扱う生物育成の基本的な理解を図る。実践的に学び、今後のスマート農業に向けてのテクノロジーも扱う。前半は、生物育成のうち作物栽培を中心に扱う。後半は、学外授業で農場へ出かけ、栽培の基礎を学ぶとともに、テクノロジーの進歩を取り扱う。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：作物の分類と種類（担当：佐野洋一） 第2回：水耕栽培の基礎（担当：佐野洋一） 第3回：スプラウト栽培の基礎（担当：佐野洋一） 第4回：有機栽培の基礎（担当：佐野洋一） 第5回：アブラナ科栽培の基礎1（担当：佐野洋一） 第6回：アブラナ科栽培の基礎2（担当：佐野洋一） 第7回：作物栽培の総括（担当：佐野洋一） 第8回：作物生産におけるテクノロジーの進歩（スマート農業に向けて）（担当：牛見宣博） 第9回：土壌、土づくり、堆肥の作り方（担当：牛見宣博） 第10回：イモ類・生姜の栽培（1）種芋づくり（担当：牛見宣博） 第11回：イモ類・生姜の栽培（2）植え付け（担当：牛見宣博） 第12回：農場施設のテクノロジー（担当：牛見宣博） 第13回：農業機械のテクノロジー（担当：牛見宣博） 第14回：生物栽培の将来像（ディスカッション）（担当：牛見宣博）			
定期試験			
テキスト 担当教員が資料を配付する			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 定期試験（60%）、レポート（20%）、ディスカッション等（20%）で評価し、60%以上で合格とする			

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 赤坂 亮、福田 翔 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報とコンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標			
【学習・教育到達目標】 コンピュータとネットワークについて基本的な事項を知り、情報の受発信の基礎的な技能とモラルを身につける。			
【科目の到達目標】			
[1] 情報社会において情報収集・分析・発信などの活動を行うための基礎的な事項を理解し修得する。			
[2] 情報社会における情報管理、ウイルス対策等のリスク管理、知的所有権を理解し修得する。			
[3] 情報倫理について過去の事例を踏まえつつ理解し修得する。			
授業の概要			
本授業科目では、今日の情報社会において安全かつ建設的に活動するために必要な知識と技能の習得を目指す。情報リテラシーとは、情報メディアを用いて情報を受信・収集・整理・分析・活用・発信といった諸活動を行うための基礎的な能力である。また、このような能力を安全かつ建設的に発揮するためには、今日の情報社会における情報管理の在り方や知的所有権に関する知識を身につけるとともに、情報倫理について過去の事例を踏まえつつ理解することも必要である。本授業では、資料作成などの実習を交えながら、このような知識と技能を実践的に修得する。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：ガイダンス、コンピュータ利用上の諸注意 受講上の注意、今日の情報社会においてコンピュータ使用者に求められる自己管理			
第2回：インターネットの利用(1) インターネット利用上の注意点、ソーシャルメディアのマナー			
第3回：PCの利用 貸与PCの基本操作、講義記録システム、プリンタの使い方、タッチタイピング			
第4回：インターネットの利用(2) インターネット利用上の諸注意、ウイルスとその対策			
第5回：インターネットの利用(3) 情報メディアにおけるマナーと倫理的なふるまい方			
第6回：情報社会の犯罪とセキュリティ(1) インターネットの一般の問題・事件・犯罪・トラブルと対策			
第7回：デジタル情報の利用(1) デジタル情報とは何か、情報管理の基礎、ビッグデータ、Society 5.0			
第8回：デジタル情報の利用(2) 知的所有権、個人情報の保護			
第9回：ウェブページの作成(1)			

WWWの特徴、簡単なウェブページを作る、アクセシビリティ
第10回：ウェブページの作成(2) HTML、ウェブページ作成の手順
第11回：ウェブページの作成(3) ウェブページの作成と公開
第12回：資料の作成(1) 情報の整理・解析・グラフ化、データの見方と情報の捉え方、表計算ソフト
第13回：資料の作成(2) 報告書の作成、ワードプロセッサ
第14回：資料の作成(3) オープンデータの基づいた調査分析、これまでの内容の復習およびレポートのフィードバック
定期試験
テキスト 毎回配布する資料
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 試験・レポート等に基づき、到達目標[1]～[3]の各評価の合計点を総点とする（比率は1：1：1）

授業科目名： プログラミング基礎Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：隅田 康明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報とコンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【学習・教育到達目標】</p> <p>プログラミングの基礎に加えて、抽象データ型やクラス、基本的なアルゴリズムをプログラミングできる能力を身につける。</p> <p>プログラミングとコンパイラの両面から、プログラミング言語についての理解を深める。</p> <p>【科目の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変数と演算について理解し、それらを含むプログラムの作成が可能である。 2. 条件分岐と繰り返しについて理解し、それらを含むプログラムの作成が可能である。 3. 配列と参照について理解し、それらを含むプログラムの作成が可能である 4. メソッドとクラスについて理解し、それらを含むプログラムの作成が可能である。 			
授業の概要			
<p>この授業では、Java言語を用いてプログラミングの基本的な概念と技術を学ぶ。プログラミングの基礎的な知識の修得を目標とする。データを格納する入れ物である変数、その変数へのデータの格納である代入、様々な計算を行うための演算、基本的な処理の流れである逐次実行、条件に応じてある処理を実行する条件分岐、何度もある処理を実行する繰り返し、処理をまとめるメソッド、複数のデータを扱う配列、データと処理をまとめるクラスについて学修する。また、競技プログラミングへの取り組み方について学ぶことで、自発的なプログラミングスキル向上のための学習方法について習得する。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：変数、代入、演算 変数の宣言、変数への代入、演算を扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第2回：条件分岐 条件分岐(if文、if-else文)を扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第3回：繰り返し 繰り返し(for文、while文)を扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第4回：条件分岐と繰り返し 条件分岐と繰り返しについて、演習を中心に進める。</p> <p>第5回：配列と参照（1） 配列の宣言と参照を扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第6回：配列と参照（2） 配列と参照について、演習を中心に進める。</p> <p>第7回：メソッド基礎（1） メソッドの宣言と呼び出しを扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第8回：メソッド基礎（2） メソッドについて、演習を中心に進める。</p> <p>第9回：メソッド応用（1） メソッドの宣言と呼び出しについて、より応用的な内容を扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第10回メソッド応用（2） 応用的なメソッドの扱いについて、演習を中心に進める。</p> <p>第11回：クラス（1） クラスの宣言、インスタンスの生成と使用を扱う。講義と演習を進める。</p> <p>第12回：クラス（2） クラスについて、演習を中心に進める。</p> <p>第13回：総合演習 これまでの内容全般について、演習を中心に進める。</p> <p>第14回：まとめ この授業における学習内容を全般的に復習する。</p>			
定期試験			
テキスト 見ひらきで学べるJavaプログラミング（近代科学社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
評価として定期試験と演習点と小テストの合計点を総点とする。（比率は6：3：1）			

授業科目名： 機電プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下 大介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報とコンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングに関して、変数、関数、ファイル入出力などについて理解し、データ処理など 目的に合わせて使用できる。			
授業の概要 産業機械や各種メカトロニクス機器を制御したり、多様なデータを処理して新たな情報を得る ためには目的に応じたプログラムの作成が必要となる。この講義では、プログラミングに関する 基礎知識・技術について演習を通して修得する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：プログラミング構築、プラットフォームについて説明・演習を行う。 第2回：標準入出力と変数について説明・演習を行う。 第3回：変数の型、演算、プログラム関数、ヘッダファイル利用について説明・演習を行う。 第4回：順次構造、選択構造（条件分岐）、条件判定式について説明・演習を行う。 第5回：反復構造（繰り返し）、定回反復、継続条件式について説明・演習を行う。 第6回：反復構造における不定回反復、継続条件式について説明・演習を行う。 第7回：乱数、数値解および解析解について説明・演習を行う。 第8回：配列宣言、添字（インデックス）、多次元配列について説明・演習を行う。 第9回：ファイル出力、CSV(Comma Separated Values)ファイルについて説明・演習を行う。 第10回：ファイル入出力とファイル終端について説明・演習を行う。 第11回：最大値、最小値、平均値、標準偏差算出について説明・演習を行う。 第12回：文字配列の扱い、文字列関数について説明・演習を行う。 第13回：関数宣言、戻り値および引数について説明・演習を行う。 第14回：構造体について説明・演習を行う。			
定期試験			
テキスト 講義時に配布する			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 プログラミングに関する基礎知識の理解度や活技術の修得度を、プログラ ミングの演習課題（100％）によって評価する。			

授業科目名： A Iプログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：隅田 康明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報とコンピュータ		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【学習・教育到達目標】 A-2-2 プログラミングの基礎に加えて、抽象データ型やクラス、基本的なアルゴリズムをプログラミングできる能力を身につける。</p> <p>【科目の到達目標】 [1] プログラム開発を行うための基礎的なプログラミングの知識を身に付けている。 [2] AI技術を利用したプログラムの開発が可能である。 [3] 自分の開発したプログラムについての発表が可能である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、「プログラミング基礎I」で修得する知識と技術を前提として、AI技術を活用したプログラムの開発やそれに関連したプログラムの開発を通してプログラミング技術を向上させることを目的とする。授業では、python言語の基礎を学び、AI関連ライブラリを利用したプログラム開発を通して、プログラミングによってAI関連技術を扱う知識と技術を身に付ける。Python言語の代表的なライブラリや、AI関連ライブラリの扱い方を学ぶとともに、基本的な画像処理技術についても修得する。最後に、開発したプログラムについての発表を行うことでプレゼンテーション力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、AIの開発環境と実行環境、機械学習、教師あり/なし学習、強化学習 第2回：Python基礎（1）：変数、演算、条件分岐、繰り返し 第3回：Python基礎（2）：メソッド、配列、リスト、多次元配列 第4回：Python基礎演習 第5回：画像処理の基礎 第6回：画像処理によるデータの可視化 第7回：ニューラルネットワーク 第8回：ディープラーニング 第9回：学習モデル構築（1）：自作データセットの作成 第10回：学習モデル構築（2）：学習およびモデルの評価 第11回：応用開発（1）：実世界で利用可能なAIプログラムの発案 第12回：応用開発（2）：実世界で利用可能なAIプログラムの開発 第13回：プレゼンテーション（1） プレゼンテーション資料の作成と発表 第14回：プレゼンテーション（2） 発表</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 講義時に配布する			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 定期試験 50%、演習点（複数回の合計） 30%、応用開発のプログラム及びプレゼンテーション 20%			

授業科目名： A I リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：村上 剛司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 情報とコンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 社会におけるA I の用途や活用事例を理解すると共に、A I を活用するための基礎的なプログラミング能力を修得する。			
授業の概要 A I に関する技術は、デジタル時代へ向けたこれからの社会変化（第4次産業革命、Society 5.0等）に深く関係しており、私たちの生活の中で広く活用が進められている。このような社会の変化に対応した技術者となるためには、多様なデータに対してA I 技術を適用できる基礎的な知識と能力を修得することが求められる。本科目では技術者が身に付けておくべきA I 技術の基礎知識と活用能力を修得する。まず、A I 技術の活用領域や活用事例を学び、A I 技術が日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることを理解する。その上で、A I 技術を活用するための基礎的なプログラミング技術を修得する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：社会の変化とAIの歴史について学ぶ 第2回：AIの分類について学ぶ 第3回：AIの導入方法について学ぶ 第4回：AIのビジネス活用事例について学ぶ 第5回：AI倫理について学ぶ 第6回：データサイエンス（1） 基本統計量とデータの可視化について学ぶ 第7回：データサイエンス（2） 相関係数，線形回帰モデル，回帰直線について学ぶ 第8回：データサイエンス演習解説，中間試験 第9回：A I 開発環境構築について学ぶ 第10回：機械学習プログラミング（1） ニューラルネットワーク～数値データの学習～について学ぶ 第11回：機械学習プログラミング（2） ニューラルネットワーク～外部数値データの読込と学習～について学ぶ 第12回：機械学習プログラミング（3） ニューラルネットワーク～画像データの学習～について学ぶ 第13回：機械学習プログラミング（4） ニューラルネットワーク～外部画像データの読込と学習～について学ぶ 第14回：機械学習まとめ ディープラーニングについて学ぶ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 業界別！A I 活用地図（本橋洋介 著、株式会社翔泳社）			
学生に対する評価 演習（20%），中間試験（20%）、プログラミングの演習（20%）、定期試験（40%）により評価する。			

授業科目名： 技術科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：藤丸 浩一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>将来、中学校教員として技術・家庭科（技術分野）の授業を担当できる十分な能力と資質を身に付けることを目標とする。</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭科編における技術・家庭科の目標及び内容及びその取り扱いと指導法について学習するとともに、実際に授業を行う上で必要となる教材研究の実践的能力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>本講義は、中学校の技術・家庭科（技術分野）の教員免許取得を目的とするものである。履修学生が教科指導の基礎・基本を身に付け、自信を持って教育実習に臨み、将来、中学校教員として技術・家庭科（技術分野）を担当できる十分な指導力の基礎を養成することを目指す。</p> <p>ここでは中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭科編とその学習内容を理解して各科目（教育実習も含む）に備える。</p> <p>また、技術・家庭科の目標、内容及びその取り扱いと指導方法について学習し、各科目の授業を行う上で必要な教材研究に関する実践力を身に付ける。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：ガイダンスとオリエンテーション 技術・家庭科科の目標及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭科の目標 ・技術分野の目標及び内容 <p>A材料と加工の技術 B生物育成の技術 Cエネルギー変換の技術 D情報の技術</p> <p>第2回：・小学校「図画工作」と中学校「技術・家庭科（技術分野）」と高等学校「情報Ⅰ・Ⅱ」、専門教科情報科との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技術・家庭科」の学び方 <p>第3回：「技術・家庭科」の教材研究①（1）A 材料と加工の技術</p> <p>学習1 ①生活や社会を支える材料と加工の技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 材料や加工の特性の原理・法則と基礎的な技 理科における植物の体のつくりと働きや原子・分子等の物質の成り立ち イ 技術に込められた問題解決の工夫 社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目し、技術が最適化されてきたことへの気付き <p>第4回：学習2 ②材料と加工の技術による問題の解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 製作に必要な図（正投影図とキャビネット図、第三角法の製図）、安全・適切な製作、検査・点検など CADによる表示、等角図及び第三角法 <p>第5回：学習3</p> <ul style="list-style-type: none"> イ 問題の発見と課題の設定、成形の方法などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正 再資源化を前提とした材料及び加工法の選択、使用者の安全や耐久性などを配慮した設計・製作 			

第6回：学習4 ③社会の発展と材料と加工の技術

- ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念
- イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用
新素材や新たな加工技術が用いられた製品を、生活における必要性、価格、製造・使用・廃棄の各場面における環境に対する負荷、耐久性等の視点から調査

第7回：「技術・家庭科」の教材研究② (2) B 生物育成の技術

学習5 ①生活や社会を支える生物育成の技術 1

- ア 生物の成長などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み
生物が成長する仕組み、生物の分類・育種、及び生理・生態の特性等の生物育成についての原理・法則と、光、土壌や培地、気温や水温、湿度、肥料や養液、衛生といった育成環境を調節する方法

第8回：学習6 ①生活や社会を支える生物育成の技術 2

- イ 技術に込められた問題解決の工夫
作物等を育成・消費する際の安全性、生産の仕組み、品質・収量等の効率、環境への負荷、経済性、生命倫理と育成する生物の成長、働き、生態の特性等にも配慮した最適化

第9回：学習7 ②生物育成の技術による問題の解決

- ア 安全・適切な栽培又は飼育、検査など
- イ 問題の発見と課題の設定、育成環境の調節方法の構想と育成計画、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正
気象的要素、土壌的要素、生物的要素、栽培する作物の特性と生育の規則性

第10回：学習8 ③社会の発展と生物育成の技術

- ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念
- イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用
伝統的な技術やバイオテクノロジー等の先端技術、食料や燃料の効率的・安定的な供給や安全性の向上、医療、芸術の発展への寄与

第11回：「技術・家庭科」の教材研究③ (3) C エネルギー変換の技術

学習9 ①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 1

- ア 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み
効率及び損失の意味、電気に関わる物性、電気回路及び電磁気特性、機械に関わる運動、熱及び流体の特性等のエネルギー変換についての原理・法則

第12回：学習10 ①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 2

- イ 技術に込められた問題解決の工夫
社会からの要求、生産から使用・廃棄までの安全性、出力、変換の効率、環境への負荷や省エネルギー、経済性及び流体の特性等にも配慮した最適化

第13回：学習11 ②エネルギー変換の技術による問題の解決 1

- ア 安全・適切な製作、実装、点検、調整など
工具や機器を使用した安全・適切な電気回路や力学的な機構の製作、設計どおりに作動するかどうかの点検及び調整

第14回：学習12 ②エネルギー変換の技術による問題の解決 2

- イ 問題の発見と課題の設定、電気回路や力学的な機構などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正
使用者の安全や保守点検のしやすさなどに配慮した設計・製作、他者との協力

第15回：学習13 ③社会の発展とエネルギー変換の技術

- ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念

イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用

- ・最新の電気機器について性能や価格だけでなく、機器の製造、輸送、販売、使用、廃棄、再利用の全ての段階における環境負荷を総合した評価
- ・研究開発が進められている新しいエネルギー変換の技術についての評価
- ・未来に向けた新たな改良、応用についての話し合い、利用者と開発者の両方の立場から技術の将来展望について意思決定や提言

第16回：「技術・家庭科」の教材研究④ (4) D 情報の技術

学習14 ①生活や社会を支える情報の技術 1

ア 情報の表現の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み

- ・コンピュータでは全ての情報を「0」か「1」のように二値化して表現していることや2進数や16進数等による計算及び記憶装置等への記録、IPアドレス等の通信の特性等の情報についての原理・法則

第17回：学習15 ①生活や社会を支える情報の技術 2

- ・センサなどの入力装置によるアクチュエータ等の出力装置までの信号の伝達経路や変換の方法、プログラムによる処理の自動化の方法
- ・コンピュータが目的を達成するために、構成する要素や装置を結合して機能させるシステム化の方法

第18回：学習16 ①生活や社会を支える情報の技術 3

イ 技術に込められた問題解決の工夫

- ・社会からの要求、使用時の安全性、システム、経済性、情報の倫理やセキュリティ等に着目し、情報の表現、記録、計算、通信の特性等にも配慮した最適化
- ・ビット (b:bit) やバイト (B:byte) 、ピクセル (pixel) 、dpi、bpsなど、情報の処理に関係する主な単位 メガ (M) 、ギガ (G) やテラ (T)
- ・知的財産の権利保護とその活用を推進し新たな知的財産の創造へとつなげる著作権を含めた知的財産権

第19回：学習17 ①生活や社会を支える情報の技術 4

- ・情報通信ネットワーク上における根拠の不明確な情報が拡散による不利益や「風評被害」など、情報の発信に伴って発生する可能性のある問題
- ・情報通信ネットワークに情報を発信する前の真偽の確認、曖昧な情報の拡散防止
- ・情報そのものを保護する情報セキュリティとコンピュータやネットワークの中につくられた仮想的な空間 (サイバー空間など) の保護・治安維持のためのサイバーセキュリティの重要性

第20回：学習18 ②ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 1

ア 情報通信ネットワークの構成、安全に情報を利用するための仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等

- ・コンピュータ同士を接続する方法、情報通信ネットワークの構成、サーバやルータ等の働き、パケット通信やWebでの情報の表現、記録や管理

第21回：学習19 ②ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 2

- ・設定した課題を解決するために適切なプログラミング言語を用いた安全・適切な順次、分岐、反復等の情報処理の手順や構造の入力、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ (その①)

第22回：学習20 ②ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 3

第23回：学習21	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題を解決するために適切なプログラミング言語を用いた安全・適切な順次、分岐、反復等の情報処理の手順や構造の入力、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ（その②） AIによる画像認識と音声認識 <p>②ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 4</p>
第24回：学習22	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題を解決するために適切なプログラミング言語を用いた安全・適切な順次、分岐、反復等の情報処理の手順や構造の入力、プログラムの編集・保存、動作の確認、デバッグ（その③） microbitを使ったLED制御 <p>②ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 5</p>
第25回：学習23	<p>イ 問題の発見と課題の設定、メディアを複合する方法などの構想と情報処理の手順の具 具体化、制作の過程や結果の評価、改善及び修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中の情報のデジタル化や処理の自動化、情報セキュリティ等に関わる問題の発見と課題設定能力 ・課題の解決策の条件を踏まえた構想と全体構成やアルゴリズムを図に表す力、試行と試作等を通じて解決策を具体化する力、設計に基づく合理的な解決作業について考える力、課題の解決結果や解決過程を評価、改善及び修正する力 <p>②ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 6</p>
第26回：学習24	<p>③計測・制御のプログラミングによる問題の解決 1</p> <p>ア 計測・制御システムの仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センサ、コンピュータ、アクチュエータ等の計測・制御システムの要素 ・計測・制御システムの各要素において異なる電気信号（アナログ信号とデジタル信号）を変換し、各要素間で情報の伝達をするためのインタフェース
第27回：学習25	<p>③計測・制御のプログラミングによる問題の解決 2</p> <p>イ 問題の発見と課題の設定、計測・制御システムの構想と情報処理の手順の具体化、 制作の過程や結果の評価、改善及び修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中における処理の自動化、システム化、問題設定能力、全体構成やアルゴリズム、データの流れを図に表す力、課題の解決結果や解決過程を評価、改善及び修正する力、情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決する力
第28回：学習26	<p>③計測・制御のプログラミングによる問題の解決 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活や持続可能な社会の構築を目指して、既存の情報の技術を、安全性や社会・産業における役割、環境に対する負荷、経済性などの多様な視点で客観的に評価し、適切な選択、管理・運用の在り方を考えたり、新たな改良、応用を発想したりする力 ・生活や社会における人工知能の活用について、人間の労働環境や安全性、経済性の視点からの利用方法の検討 ・研究開発が進められている新しい情報の技術（VR, AR, MR, XR, BCI等）の優れた点や問題点の整理 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築という観点から、未来に向けた新たな改良、応用についての話し合い活動、利用者と開発者の両方の立場から技術の将来展望に

について意思決定と提言
定期試験
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』 「中学校技術・家庭 技術分野」 開隆堂出版株式会社（2021）
参考書・参考資料等 「プログラミング教育の小中連携」 開隆堂出版株式会社（2020） 「双方向性のあるコンテンツのプログラミング」 開隆堂出版株式会社（2020）
学生に対する評価 到達目標に照らして、試験、レポート（80%）を採点すると共に、それに授業態度（20%）を加味して成績評価を行う。

授業科目名： 教科指導法Ⅰ（技術）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤丸 浩一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1 技術科教育法の学習成果を踏まえて、中学校技術科の授業を開発できる。</p> <p>2 中学校技術科の模擬授業に取り組み、基本的な授業技術を身に付けることができる</p>			
授業の概要			
<p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』に基づく中学校技術科カリキュラム及び、授業作りの特質を理解するとともに、教員採用試験で出題されたテーマを用いて中学校技術科の授業計画を作成し、模擬授業①を受講者全員が行う。</p> <p>なお、模擬授業①を行うに当たっては、ICT機器及びデジタル教材を活用する。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：ガイダンスとオリエンテーションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の目的と計画、評価方法、中学校における技術・家庭科（技術分野）の役割 ・学習指導要領における技術・家庭科（技術分野） ・小（図画工作、プログラミング学習）・中（技術・家庭科）・高校（情報Ⅰ、Ⅱ）の連携 ・受講生のグループ分け（A, B, C, D） <p>第2回：ベテラン教師の授業を視聴し、学習指導案と照らし合わせて授業づくりの方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画、単元指導計画、学習指導案、発問計画、板書計画等の作成法 <p>第3回：ICT機器の活用法①について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Workspace for education の目的、概要、アプリサービス、パスワードとクラスの作成 <p>実習1 ・Googleフォーム、GoogleJamboard、Googleスライド、Googleドキュメントの活用法 ICT機器の活用法②について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft teams の目的、概要、アプリサービス、チームの作成と学生の招待と参加 <p>実習2 テキストチャット、ファイルの共有、ビデオ会議、協働編集作業、課題の作成と配布、提出、採点、返却の活用法</p> <p>第4回：技術分野の内容（A～D）と具体的な学習内容を決めて学習指導案を作成する。①</p> <p>第5回：技術分野の内容（A～D）と具体的な学習内容を決めて学習指導案を作成する。②</p> <p>第6回：技術分野の内容（A～D）と具体的な学習内容を決めて学習指導案を作成する。③</p> <p>第7回：技術分野A材料と加工の技術（材料や加工等の原理・法則）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第8回：技術分野A材料と加工の技術（材料の製造・加工方法）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第9回：技術分野B生物育成の技術（生物の成長、生態特性の原理・法則）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第10回：技術分野B生物育成の技術（育成環境の調節方法等の基礎的技術）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第11回：技術分野Cエネルギー変換の技術（電気、運動、熱の原理・法則）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第12回：技術分野Cエネルギー変換の技術（エネルギー変換・伝達）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第13回：技術分野D情報の技術（情報の表現、記録、計算、通信、デジタル化）の模擬授業①を実施する。</p> <p>第14回：技術分野D情報の技術（自動処理、情報セキュリティ、情報モラル）の模擬授業①を実施</p>			

する。
定期試験
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』 「中学校技術・家庭 技術分野」 開隆堂出版株式会社（2021）
参考書・参考資料等 「プログラミング教育の小中連携」開隆堂出版株式会社（2020） 「双方向性のあるコンテンツのプログラミング」開隆堂出版株式会社（2020）
学生に対する評価 到達目標に照らして、レポート（10%）、模擬授業（80%）を採点すると共に、 それに授業態度（10%）を加味して成績評価を行う。

授業科目名： 教科指導法Ⅱ（技術）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤丸 浩一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1 授業評価のための観点や評価手法，評価のための分析法を習得して，教科指導法Ⅰ（技術）で実施した模擬授業①の指導案のいくつかを批判的に評価できる。</p> <p>2 上記の評価を踏まえて，学習指導案を修正して模擬授業②を実践できる。</p>			
授業の概要			
<p>P D C Aサイクルのうち，教科指導法Ⅰでは，P（計画）とD（実施）を中心に行った。教科指導法Ⅱでは，C（評価）とA（改善）を行う。具体的には，評価の観点や手法，授業事実の看取り方などを解説したのち，教科指導法Ⅰで実施した授業を対象に評価を行い，グループ（A～D）毎にその評価を踏まえて改善策を検討し，批判的に改善し，再度，模擬授業②の形で実施する。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：オリエンテーション 講義の目的と計画，評価方法について説明する。 授業評価とテストの関係（指導と評価の一体化），各種テストとそれぞれの特性</p> <p>第2回：評価（前期の教科指導法Ⅰで実施したAグループの模擬授業①の分析）をする。 選択した指導案を教材研究，発問計画、板書計画の視点から評価し，改善を図る。</p> <p>第3回：評価（前期の教科指導法Ⅰで実施したBグループの模擬授業①の分析）をする。 選択した指導案を教材研究，発問計画、板書計画の視点から評価し，改善を図る。</p> <p>第4回：評価（前期の教科指導法Ⅰで実施したCグループの模擬授業①の分析）をする。 選択した指導案を教材研究，発問計画、板書計画の視点から評価し，改善を図る。</p> <p>第5回：評価（前期の教科指導法Ⅰで実施したDグループの模擬授業①の分析）をする。 選択した指導案を教材研究，発問計画、板書計画の視点から評価し，改善を図る。</p> <p>第6回：グループ（A～D）で模擬授業②の為のプレゼン（目的，手だて，評価等）を作成する。①</p> <p>第7回：グループ（A～D）で模擬授業②の為のプレゼン（目的，手だて，評価等）を作成する。②</p> <p>第8回：プレゼン発表と質疑応答を通して，グループ内で協働して指導案の修正をする。①</p> <p>第9回：プレゼン発表と質疑応答を通して，グループ内で協働して指導案の修正をする。②</p> <p>第10回：グループAによる修正した指導案に基づく模擬授業②の実施 グループB，C，Dによる分析の実施</p> <p>第11回：グループBによる修正した指導案に基づく模擬授業②の実施 グループA，C，Dによる分析の実施</p> <p>第12回：グループCによる修正した指導案に基づく模擬授業②の実施 グループA，B，Dによる分析の実施</p> <p>第13回：グループDによる修正した指導案に基づく模擬授業②の実施 グループA，B，Cによる分析の実施</p> <p>第14回：模擬授業②の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録画記録、相互評価、修正した指導案学習指導案に基づいた模擬授業の振り返り ・指導上の課題とその解決法に関する相互評価と研究討議の実施 			
定期試験			

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』
「中学校技術・家庭 技術分野」 開隆堂出版株式会社（2021）

参考書・参考資料等 「プログラミング教育の小中連携」開隆堂出版株式会社（2020）
「双方向性のあるコンテンツのプログラミング」開隆堂出版株式会社（2020）

学生に対する評価 到達目標に照らして、レポート（10%）、プレゼン（10%）、模擬授業（70%）
を採点すると共に、それに授業態度（10%）を加味して成績評価を行う。

授業科目名： 機械工作法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下 大介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 鋳造、塑性加工、溶接の基本を習得し、加工しやすい工作機械の選択力を身につける。			
授業の概要 良い製品を作るためには、図面を基に、どのような加工法で加工するのかを決める必要がある。したがって、この講義では機械工作法や工作機械についての理解を深める。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：概要、模型、鋳型について説明する。 第2回：溶解炉、鋳物の欠陥と検査方法について説明する。 第3回：鋳造用金属材料、特殊鋳造法について説明する。 第4回：鍛造について説明する。 第5回：圧延、プレス加工、その他の組成加工法について説明する。 第6回：概要、アーク溶接、ガス溶接について説明する。 第7回：抵抗溶接、その他の溶接について説明する。 第8回：溶接部の性質、各種材料の溶接について説明する。 第9回：旋盤について説明する。 第10回：ボール盤、中ぐり盤について説明する。 第11回：歯切り盤について説明する。 第12回：フライス盤、マシニングセンタについて説明する。 第13回：放電加工機について説明する。 第14回：研削盤について説明する。			
定期試験			
テキスト 機械工作法（増補）（平井三友、和田任弘、塚本晃久 著、コロナ社）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験・定期試験(60%)、小テスト(40%)を基本に総合的に評価する。			

授業科目名： 機電工学基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：今坂 公宣、 阿部 宜輝、西寄 照和、 赤坂 亮、寺西 高広、 松下 大介、李 湧権、 村田 光昭、郭 光植、 末吉 哲郎、貞方 敦雄、 福田 翔、穂本(福田) 枝里子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、機械工学や電気電子工学の学問分野の紹介(座学)及び簡単な実験や実習を通じて機械工学や電気電子工学に関する興味関心を抱かせる講義内容とし専門科目へ繋げること。</p> <p>到達目標は、機械工学や電気電子工学の分野について、その概要を理解すること。実験や実習を通じて、機械工学や電気電子工学に関する基礎的な知識やスキルを高めること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、複数グループに別れて機械工学分野及び電気電子工学の基礎(座学)や実験実習、両分野に関するキャリア形成講演会を行う。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回： 授業ガイダンスとして、シラバスや授業内容、授業スケジュール等を説明する。</p> <p>第2回： 機械工学分野に関する基礎1：機械力学入門</p> <p>第3回： 機械工学分野に関する基礎2：材料力学入門</p> <p>第4回： 機械工学分野に関する基礎3：機械工作入門</p> <p>第5回： 機械工学分野に関する実習1：機械力学実習</p> <p>第6回： 機械工学分野に関する実習2：材料力学実習</p> <p>第7回： 機械工学分野に関する実習3：機械工作実習</p> <p>第8回： 電気電子工学分野に関する基礎1：電気電子工学入門</p> <p>第9回： 電気電子工学分野に関する基礎2：電子通信工学入門</p> <p>第10回： 電気電子工学分野に関する基礎3：半導体工学入門</p> <p>第11回： 電気電子工学分野に関する実習1：電気工作実習</p> <p>第12回： 電気電子工学分野に関する実習2：電子工作実習</p> <p>第13回： 電気電子工学分野に関する実習3：半導体・電子通信実習</p> <p>第14回： 機械及び電気電子工学分野に関するキャリア形成講演会</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>機械設計技術者のための4大力学（朝比奈奎一 監修、オーム社）</p> <p>例題で学ぶ初めての電気電子工学（臼田昭司、伊藤敏、井上祥史 著、技術評論社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業の最後に提出するレポート(100%)</p>			

授業科目名： 機械力学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：李 湧権 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1自由度不減衰振動系の運動方程式を立て、初期条件が与えられた場合の自由振動応答と調和励振を受ける場合の定常応答を求めることができる。 ・ エネルギーの関係から固有振動数を求めることができる。 ・ 回転運動及び剛体運動の運動方程式を立て、拘束条件等により1自由度系として扱える場合について応答を求めることができる。 ・ 剛体の慣性モーメントと重心を求めることができる。 			
授業の概要			
機械の運動と振動を扱う機械力学分野の中でも特に基本となる1自由度不減衰振動系及び剛体の運動について講義する。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：数学的準備と1自由度不減衰振動系 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第2回：1自由度不減衰振動系の運動方程式と解 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第3回：固有周期と固有振動数、等価バネ定数 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第4回：エネルギーの関係を用いた固有振動数の計算とレーリー法 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第5回：調和外力を受ける1自由度不減衰振動系 / 講義内容に関する演習（次々回の講義で解説）			
第6回：第4回までのまとめと中間試験1（次回の講義で返却）			
第7回：調和変位を受ける1自由度不減衰振動系 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第8回：力のモーメントと回転の運動方程式 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第9回：回転運動の例題(アトウッドの器械、単振り子)の解法 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第10回：慣性モーメントの求め方 / 講義内容に関する演習（次々回の講義で解説）			
第11回：第9回までのまとめと中間試験2（次回の講義で返却）			
第12回：重心とその求め方、剛体振子の運動 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第13回：一般的な剛体の運動 / 講義内容に関する演習（次回の講義で解説）			
第14回：平行軸の定理と直交軸の定理 講義内容に関する演習（講義中に解説もしくは模範解答を配布） 講義内容に関連した資格試験問題の演習			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 機械振動学（岩田佳雄・佐伯暢人・小松崎俊彦 著、数理工学社） 演習で学ぶ機械力学 第3版（小野忠・矢野澄雄 著、森北出版）			
学生に対する評価 演習課題(10点)、中間試験1(30点)、中間試験2(30点)、定期試験(30点)			

授業科目名： 電磁気学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：末吉 哲郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 電気・電子・情報通信技術者にとって基礎となる電磁現象に関する法則の理論的理解ができるようになる。			
授業の概要 電磁気学は広く電気磁気現象の理論的基礎を与える学問であり、電気工学を学びそれをよく理解するためにも是非マスターしておくべき基礎科目の一つである。本講義では、真空中の静電界に関する諸量の定義や法則などについて学ぶことから始め、静電界中の導体の電氣的性質および導体を流れる電流の性質について学ぶ。ガウスの法則を理解し、これを用いて種々の帯電体による電界を導けること、また、電位を理解しその勾配を求めることによって電界を導出できること、さらに、導体に対する静電容量の概念を理解し、各種のコンデンサーの静電容量を導出できることを達成目標とする。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：物質と電荷 第2回：クーロンの法則 第3回：静電誘導 第4回：電界と電気力線（1） 第5回：電界と電気力線（2） 第6回：電位差と電位 第7回：等電位面と電位の傾き 第8回：ガウスの法則 第9回：講義内容（1回～7回）のまとめ 第10回：ガウスの法則，帯電体の電荷分布と電界 第11回：電気映像法，静電しゃへい 第12回：静電容量 第13回：コンデンサーの接続 第14回：講義内容（8回，9回～13回）のまとめ 定期試験			
テキスト 電気磁気学（安達三郎、大貫繁雄 著、森北出版）			
参考書・参考資料等 『工科の物理3 電磁気学』（渡辺征夫、青柳晃 著、培風館）			
学生に対する評価 レポート（30%），中間・期末試験（70%）			

授業科目名： 電磁気学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：末吉 哲郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 電気・電子・情報通信技術者にとって基礎となる電磁現象に関する法則の理論的理解ができるようになる。			
授業の概要 この講義では、物質中の静電界、導体を流れる電流の性質および真空中の静磁界について学ぶ。電束密度を導入することにより一般化されたガウスの法則を用いて物質中の電界を計算できること、定常電流の場合と静電界の場合との類似性を用いて簡単な電極間の電気抵抗を計算できること、あわせて、キルヒホッフの法則を用いて抵抗回路を流れる電流を計算できること、さらに静磁界においては、ビオ・サバルの法則とアンペアの法則の理解を基礎として、これらの法則を用いて各種の電流によってできる磁界を導けることを達成目標とする。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：静電界におけるエネルギーと力 第2回：誘電体と比誘電率，誘電体の分極，誘電体中のガウスの法則 第3回：誘電体中のガウスの法則 第4回：誘電体境界面での境界条件 第5回：誘電体中に蓄えられるエネルギーと力 第6回：電流 / オームの法則と抵抗 / ジュールの法則 第7回：磁界，電流による磁界と磁束，電磁力（1） 第8回：講義内容(1-6回)のまとめ 第9回：磁界，電流による磁界と磁束，電磁力（2） 第10回：ビオ・サバルの法則（1） 第11回：ビオ・サバルの法則（2） 第12回：アンペアの周回積分の法則（1） 第13回：アンペアの周回積分の法則（2） 第14回：講義内容(7回，9回-13回)のまとめ 定期試験			
テキスト 電気磁気学（安達三郎、大貫繁雄 著、森北出版）			
参考書・参考資料等 『工科の物理3 電磁気学』（渡辺征夫、青柳晃 著、培風館）			
学生に対する評価 レポート（50%）、期末試験（50%）			

授業科目名： 電気電子計測Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 穂本(福田) 枝里子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 電気電子計測に関する理論と応用について、電気回路や電磁気学に基づく計測器の原理、ならびに種々の計測器がどのような目的で作られ、使われているかという両者の観点から理解し、説明できる。			
授業の概要 電気電子計測は、電気工学分野の実験および研究開発を正しく遂行するために必要不可欠な電気電子工学諸量の測定に関する原理や測定技術を系統的に学ぶ教科である。電気電子計測Ⅰ（電気計測）では、計測の基本概念と誤差論を含むデータの処理方法、単位と標準について学んだ後、主にアナログ計測を扱う。電気回路、電磁気学の知識をもとにアナログ電流計、電圧計、電力計などの原理を学ぶ。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス、電気計測の基礎（1）：講義概要、計測とは何か、計測の歴史 第2回：電気計測の基礎（2）：測定法、計測の用語 第3回：電気計測の基礎（3）：誤差と精度、誤差の伝搬 第4回：電気計測の基礎（4）：測定値の統計処理 第5回：電気計測の基礎（5）：SI単位系、標準 第6回：まとめと理解度確認試験(中間試験) 第7回：電気電子計器の基礎：指示計器の分類、指示計器の構成要素 第8回：電圧・電流の測定（1）：分流器、倍率器 第9回：電圧・電流の測定（2）：微小電圧・電流の測定、高電圧の測定、大電流の測定 第10回：電力・電力量の測定（1）：直流電力の測定、単相電力の測定 第11回：電力・電力量の測定（2）：三相電力の測定 第12回：抵抗・インピーダンスの測定：低抵抗・中位抵抗・高抵抗の測定、インピーダンスの測定 第13回：磁界・時間の測定：磁束・磁界の測定、周波数・位相の測定 第14回：まとめと期末試験			
テキスト 電気・電子計測(第4版) (阿部 武雄、村山 実 著、森北出版)			
参考書・参考資料等 電気・電子計測工学 (改訂版) - 新SI対応 - (吉澤 昌純他 著、コロナ社) 新SI対応 デジタル時代の電気電子計測基礎 (改訂版) (松本 佳宣 著、コロナ社)			
学生に対する評価 演習・小テスト(40%)、中間・期末試験(60%)			

授業科目名： 電気電子計測Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 穂本(福田) 枝里子
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 工業の関係科目（高等学校 工業）		
授業のテーマ及び到達目標 電気電子計測に関する理論と応用について、デジタル計測に関する原理、ならびに種々のデジタル計測器がどういう目的で作られ、使われているかという両者の観点から理解し、説明できる。			
授業の概要 電気電子計測は、電気工学分野の実験および研究開発を正しく遂行するために必要不可欠な電気電子工学諸量の測定に関する原理や測定技術を系統的に学ぶ教科である。電気電子計測Ⅱ（電子計測）では、電気電子計測Ⅰ（電気計測）の続きとしてデジタル計測を扱う。信号増幅やAD/DA変換の基礎を復習した後、波形観測装置（デジタルオシロスコープ等）や信号の周波数分析装置（スペクトラムアナライザ等）の測定原理を学ぶ。また、光・熱・磁気といった物理量を電圧や電流信号に変換する各種センサの特性や各種センサの応用計測について理解する。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス 電子計測の基礎（1）：講義概要、電気電子計測Ⅱ（電子計測）で何を学ぶか 第2回：電子計測の基礎（2）：電気電子計測Ⅰ（電気計測）の復習 第3回：電子計測の基礎（3）：アナログ量の扱い方、信号増幅 第4回：電子計測の基礎（4）：演算増幅器を用いた各種回路 第5回：電子計測の基礎（4）：デジタル量の扱い方 第6回：まとめと理解度確認試験(中間試験) 第7回：電子計測の基礎（5）：A-D変換、D-A変換 第8回：電子計測（1）：電圧・電流測定 第9回：電子計測（2）：抵抗・インピーダンス測定 第10回：電子計測（3）：波形観測、周波数・位相測定 第11回：電子計測（4）：雑音の種類、SN比 第12回：応用計測（1）：センサ 第13回：応用計測（2）：生体計測 第14回：まとめ 定期試験			
テキスト 電気・電子計測(第4版) (阿部 武雄、村山 実 著、森北出版)			
参考書・参考資料等 電気・電子計測工学(改訂版)・新SI対応・(吉澤 昌純他 著、コロナ社) 新SI対応 デジタル時代の電気電子計測基礎(改訂版) (松本 佳宣 著、コロナ社)			
学生に対する評価 演習・小テスト(40%)、中間・期末試験(60%)			

授業科目名： 職業指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：江頭 彰 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 職業指導		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容について、知識及び技術を習得して活用できるようにする。 ・ 講義内容の振り返りを通して、習得した知識及び技術を活用できるようにする。 ・ 協議及び実習を通して、自分の考えと他者の考えの比較を行い、新たな考えを創造しながら職業指導ができるようになる。 			
授業の概要			
<p>職業「教育」は職業に関する全体的な内容であることに対し、職業「指導」は個別的な内容であり、生徒一人ひとりの職業選択に対して具体的な支援をおこなうことである。本講義は、職業指導の知識及び技術の習得を基礎に、具体的な支援に活用できる能力の定着を目指す。前期では、学校教育での「職業指導」の必要性について歴史的に振り返り、現代の課題について協議・演習を行う。後期では、前期講義で明らかになった課題を解決するために、数回の模擬面接を行い具体的な支援（活用）へ繋がる指導方法を身に付けることを目指す。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：オリエンテーション（授業の目的、評価基準、評価方法など）</p> <p>科目「職業指導」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校と社会を繋ぐ教育について ・ 「職業」の語義について ・ 職業の種類と教科「工業」・教科「商業」との関連について <p>第2回：「高等学校学習指導要領」教科目標における職業指導の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法・教育基本法・学校教育法にける「職業」（勤労）について ・ 教科「工業」・教科「商業」の教科目標について ・ 特別活動の目標とホームルーム活動（3）について ・ 「職業教育」がなぜ軽視されてきたのか。 <p>第3回：産業構造の変化と職業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1945～現在までの産業構造の変化について ・ 労働集約型職業中心から知識集約職業中心への変化について ・ 組織社会の職業について <p>第4回：学校におけるキャリア開発と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター編『キャリア教育のススメ 小学校・中学校・高等学校における系統的なキャリア教育の推進のために』 ・ 高校1年～3年生の系統的指導について <p>第5回：協議・演習（1）／1～4回講義について、個人・同教科集団・異教科集団での協議</p> <p>第6回：協議・演習（2）／協議・演習（1）の協議を通して、個人の考えの変化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の考えの変化の報告 <p>第7回：キャリア開発と職業教育（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア開発と職業指導について ・ 職業教育・職業指導・進路指導について ・ 職業教育とキャリア教育について <p>第8回：キャリア開発と職業教育（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共所職業安定所（ハローワーク）とその他の機関での職業指導 ・ その他の機関での職業指導 <p>第9回：キャリア開発と職業教育（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業指導における職業指導の役割について ・ 職業相談（キャリアガイダンス&カウンセリング）について 			

- ・進路相談（キャリアカウンセリング）について
- 第10回：キャリア開発と職業教育（1）～（3）の振り返りテスト
- 第11回：キャリア開発と職業適性（1）
 - ・職業適性について
 - ・特性因子理論（パーソンズ）について
 - ・職業的（キャリア）発達理論（スーパー）について
- 第12回：キャリア開発と職業適性（2）
 - ・スーパーの職業適合性理論について
 - ・今のキャリア教育の基盤となるスーパーの職業適合性理論
- 第13回：キャリア開発と職業適性（3）
 - ・厚生労働省編一般職業適性検査について
 - ・職業興味検査（レディネステスト）について
 - ・適性検査使用上の留意点
- 第14回：キャリア開発と職業適性（1）～（3）の振り返りテスト
- 第15回：カウンセリング理論
 - 人とつながる力 / 問いかける力 / 支援者としての3つの役割
- 第16回：カウンセリング技法
 - 非言語について / 言語について / アドラー心理学について
- 第17回：カウンセリング理論とカウンセリング技法の振り返りテスト
- 第18回：模擬面接事前学修（1）
 - 人権配慮事項について / 進路相談の内容について（就職・進学）
- 第19回：模擬面接事前学修（2）
 - 1年生4月の生徒と教師との面談について（不安事項の把握・家庭訪問）
- 第20回：模擬面接実践（1） / 2年生2学期終了時を想定した三者模擬面接
- 第21回：模擬面接実践（2） / 2年生2学期終了時を想定した三者模擬面接
- 第22回：模擬面接実践（3） / 2年生2学期終了時を想定した三者模擬面接
- 第23回：模擬面接実践（1）～（3）振り返り・協議・演習
- 第24回：模擬面接実践（4） / 3年生1学期終了時を想定した三者模擬面接
- 第25回：模擬面接実践（5） / 3年生1学期終了時を想定した三者模擬面接
- 第26回：模擬面接実践（6） / 2年生2学期終了時を想定した三者模擬面接
- 第27回：模擬面接実践（4）～（6）振り返り・協議・演習 / メタ認知について
- 第28回：模擬面接実践（1）～（6）から見えてきた課題を解決するための教育活動について

定期試験

テキスト 学生・教員・研究者に役立つ 進路指導・キャリア教育論（望月由紀 著、学事出版）

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 工業編（教科「工業」免許取得希望者）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編（教科「商業」免許取得希望者）

学生に対する評価

振り返りテスト（60％）、報告内容（課題レポート・報告）・定期試験（40％）

授業科目名： 工業科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名：梅野 貴俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 高等学校学習指導要領の趣旨と社会における工業高校の意義、工業科の教育目標と内容、教育法、実技指導法などを理解する。また、工業の各学科における教育目標の設定と教育課程の編成、年間指導計画と学習指導案を作成できる能力と、工業教育に必要な教具、教材を把握する能力を育成する。			
授業の概要 日本の教育制度における高等学校・工業技術教育の位置づけ、海外と日本との産業・工業技術教育の構造の違い、工業科教育の歴史、高等学校学習指導要領および工業に関する学科の変遷など、高等学校工業の教師に必要な素養について確認する。これらを基に工業科教育の性格や内容等の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手としての資質や能力を形成することを目的とする。前半は工業高校における教育の機能を中心に展開し、理想的な授業の創造と教師としての在り方を理解することを達成目標とする。後半は高等学校の工業について、教材開発や授業評価など授業実践に関わる部分を中心に学習し、授業実践のための基礎的・基本的技術の習得及び工業教育を担う教師としての資質を養うことを達成目標とする。なお、計画的に教育課題5分間スピーチおよび教育課題レポートを課する。			
授業計画 第1回：工業科教育法のガイダンス / 年間授業計画と概要 第2回：学校教育と教師の役割 / 学校教育の機能とその使命を考える 第3回：工業教育の歴史 / 工業教育の歴史的な展開過程 第4回：日本と海外における工業科教育 / 日本と海外における産業・工業・技術の教育制度 第5回：徒弟制度と学校教育 / 徒弟制度での工業技術指導とは（職人の世界に工業教育を考える） 第6回：工業教育の意義と役割1 / 普通教育と専門教育 第7回：工業教育の意義と役割2 / 専門教育の重要性 第8回：工業教育の意義と役割3 / 専門教育の課題 第9回：学習指導要領の解説 / 学習指導要領改訂の背景（学習指導要領の変遷） 学習指導要領改善の具体的事項 / 工業高校の教育目標と内容 第10回：工業教育の現状と課題1 / 現場の授業風景から得られる課題点の抽出 第11回：工業教育の現状と課題2 / 資格取得、ものづくりに関する実技教育 第12回：工業教育の現状と課題3 / キャリア教育 第13回：工業高校教員の現状 / 工業科教員の研修、職務内容			

第14回：学級経営の考え方1

学級経営と保護者連携の課題学級経営の考え方2 / 教師が遭遇する危機

第15回：充実した授業の展開1 / 工業科教育の指導方法、授業のデザインと指導技術

第16回：充実した授業の展開2 / 教材の具体例・ICT活用事例

(教育目標と教材(デジタル教材)の必要性)

第17回：充実した授業の展開3 / 教材の具体例・ICT活用事例

(教材(デジタル教材)の評価と改善)

第18回：充実した授業の展開4 / 授業準備と安全確認、危険物に関する免許

第19回：工業高校の施設設備と教材1 / 実験・実習に用いる教材・教具等の管理と運営

第20回：工業高校の施設設備と教材2 / 実験・実習の指導(「機械実習、製図」、「電気実習、製図」等を取り扱う)

第21回：工業科目の年間指導計画の考え方1 / 指導計画、指導案の作成(ICT活用を含む)を通して、「工業科の基礎科目」の目標、内容の構成及び取り扱いを学ぶ

第22回：工業科目の年間指導計画の考え方2 / 指導計画、指導案の作成(ICT活用を含む)を通して、「工業科の実習科目」の目標、内容の構成及び取り扱いを学ぶ

第23回：工業科目の年間指導計画の考え方3 / 指導計画、指導案の作成(ICT活用を含む)を通して、「工業科の課題研究」の目標、内容の構成及び取り扱いを学ぶ

第24回：作成した指導計画、指導案より、模擬授業の学習指導案の構成、指導案の形式、構成要素、留意点を解説する。

第25回：福岡県内の工業高校で実施された教育実習における学習指導案を参考に、模擬授業の解説(講義形式、実験・実習形式ともに)を行う。

第26回：工業科教育・模擬授業の実施1

50分間の模擬授業を行い、講評、質疑応答より、板書計画など指導内容の改善を行う。

第27回：工業科教育・模擬授業の実施2

50分間の模擬授業を行い、講評、質疑応答より、板書計画など指導内容の改善を行う。

第28回：工業高校教員を目指すにあたって

工業と社会の発展を図る創造力と実践的態度を育てる工業教育の在り方について工業教育の課題と展望 / 工業科教育法のまとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 工業編』

参考書・参考資料等

学生に対する評価

中間・期末テスト(60%)、教育課題レポート(30%)、出欠および授業態度(10%)

授業科目名： 教科指導法Ⅰ（工業）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：梅野 貴俊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 工業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高等学校学習指導要領の趣旨を十分に理解し、各教科に設定された教育目標に基づいた指導計画と授業の基本を把握する。授業設計に必要な学習指導案の立案、教材開発・授業実践能力を身につけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、工業に関する各学科の目標と教育課程編成を理解し、教育・実技指導するための実践的な知識、教材開発とその活用術を含めた教育スキルを学ぶ。次年度に高等学校で実施する「教育実習」を前提に、高等学校学習指導要領を十分に理解した上で、工業科の授業実践に必要な学習指導案の作成や教材研究手法および指導法と評価を体験的に身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとオリエンテーション 学習指導要領における工業教育1 / 工業教育の意義と役割（中学校技術教育との接続）</p> <p>第2回：学習指導要領における工業教育2 / 工業教育の意義と役割（産業社会との接続）</p> <p>第3回：教育実習の概要と課題点 / 高校側から見た、教育実習生受け入れについての受け止め方</p> <p>第4回：学習指導案の構成 / 指導案の形式、構成要素、留意点</p> <p>第5回：学習指導案の作成1 / 教科・科目の決定と科目内容の指導</p> <p>第6回：学習指導案の作成2 / 模擬授業計画の立案と学習指導案の作成</p> <p>第7回：学習指導案の作成3 / 学習指導案における単元観や観点別評価と評価の工夫を学ぶ</p> <p>第8回：学習指導案の作成4 / 板書計画を作成し、教具と教材（教材開発）を構想する</p> <p>第9回：グループ分け、また模擬授業指導案を相互評価し、模擬授業実施に向けて研究協議を行う</p> <p>第10回：模擬授業の実践1（機械、電気、電子、コンピュータ分野） 学習指導案に沿った模擬授業の実践、相互評価及び協議</p> <p>第11回：模擬授業の実践2（建築、設備、土木、化学、環境分野） 学習指導案に沿った模擬授業の実践、相互評価及び協議</p> <p>第12回：模擬授業の実践3（工業材料、インテリア、デザイン分野） 学習指導案に沿った模擬授業の実践、相互評価及び協議</p> <p>第13回：模擬授業DVDの観察及び討論</p> <p>第14回：教育実習に参加する上での注意事項 学校現場での仕事内容と基本的素養について教科指導法研究Ⅰ（工業）のまとめ 模擬授業の自己評価と授業改善</p>			

定期試験
テキスト 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 工業編』
参考書・参考資料等
学生に対する評価 中間・期末考査（60%），教育課題レポート（30%），出欠および授業態度（10%）で評価する。

授業科目名： 教職特講	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鄭 修娟 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、教職に関する意識を高めることによって、教職を志す自らの適性を判断して進路選択に資する機会・情報等を提供する。将来、中学校または高等学校の教員になった場合、教員生活を送るうえで必要な最低限度の基礎知識とスキルを身につけることを目標とする。			
授業の概要 本授業では、「教職とは何か」「教師とは何か」について教職世界の歴史、制度、実態などを通じて理解するとともに、長い教職人生において必要不可欠となる知識やスキル、教養等を検討し、話し合う。なお、本授業は教員採用試験の出題傾向にも配慮した内容となっている。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス（あなたにとって「理想の教師像」は？） 第2回：戦前・戦後の教員養成の理念（教員になるにはなぜ「免許」が必要か？） 第3回：教員の労働条件を知る（子どもの学習権保障のための教員の労働条件の整備） 第4回：大学生活と教育実習（日本の教育実習の構造的特徴） 第5回：教員採用試験に臨む（日本の教員採用制度の特徴） 第6回：教師の1日・1週間（海外との比較からみた日本の教員文化） 第7回：学び続ける教師（教師に求められる資質能力はどのように変わってきたか？） 第8回：授業づくりに燃える教師（「見えない教育」とは？） 第9回：学級経営に打ち込む教師（学級通信をつくろう） 第10回：組織の中で働く教師（学校を「組織」として考える） 第11回：法の中の教師（教師の教育活動は「法」と無縁か？） 第12回：ミドルリーダーとしての教師（「ミドルリーダー」とは誰か？） 第13回：家庭人としての教師（教師のワークライフバランスを保つためには？） 第14回：学校経営を極める教師（管理職になるとは？） 定期試験			
テキスト 元兼正浩監修『教職論エッセンス—成長し続けるキャリアデザインのために』花書院、2015 参考書・参考資料等 佐藤学『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店、2017			
学生に対する評価 毎回の課題(45%)と定期試験(55%)をもとに評価します。課題は当日の授業内容を振り返り、自分の意見をまとめるものです。定期試験は、それまでの授業内容を総合的に考え、議論できるような能力を測るものであり、本講義の到達目標に達成できているかどうかを判断します。			

授業科目名： 同和教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：貞永 靖 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標 一人ひとりがそれぞれの体験や価値を持っていることを認識することができ、誰もがもっている「無意識の偏見」に気づくことができる。そのうえで、自分自身と身近な人々との関わりや、社会の在り方について考えることの大切さに気付くことができる。</p>			
<p>授業の概要 本授業は、次の内容を解説する。現代社会は、経済中心のグローバル化が進展する中で「生きにくい」社会と化し、差別問題を始め、いじめ、不登校、虐待という事態までを引き起こしている。この社会状況に対して、これまで部落差別をなくし、子どもたちの命や人権を何よりも大切にしてきた同和教育・人権教育が今まで以上に「教育」の中で大きな意味を持ってきている。本授業により部落問題・人権問題を基軸に、自らの偏見や囚われた意識を問い、豊かな人権感覚を身につけ、差別を無くそうと展望していくことができるようになることを目的とする。※本講義は人権・同和問題を専門とする実務家が担当する。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分） 第1回：人権とは何か 小中高の人権学習についてのアンケート実施 性的指向、性自認について 第2回：同和問題とはなにか（部落差別について） 第3回：被差別部落の形成史①（中世の穢れ思想と部落差別、女性差別） 第4回：被差別部落の形成史②（近世の身分制の固定化） 第5回：差別・いじめとは何か（無意識の偏見） ※教職員としての実務経験を活かし、いじめの実例をもとに、差別やいじめの作られていく過程と、その中で被差別側と差別側のそれぞれの心理について解説する。 第6回：差別・いじめとは何か（人種差別、インターネットと人権） 第7回：同和教育とはどんな教育か（同和教育の変遷） 第8回：部落差別を解消する取り組み①（解放令～水平社宣言） 第9回：部落差別を解消する取り組み②（同和对策審議会答申） 第10回：部落差別を解消する取り組み③（同和对策事業～部落差別解消推進法） 第11回：今後の人権・同和教育に求められるもの①（部落差別を解消する取り組みはどう活かされたか・公正な採用選考、奨学金制度） 第12回：今後の人権・同和教育に求められるもの②（「差別する側」と「差別される側」、「マジョリティーとマイノリティー」について） 第13回：今後の人権・同和教育に求められるもの③（学校での人権・同和教育の在り方、人権学習生徒指導、福祉との連携） ※教職員としての実務経験を活かし、実際に学校で行われた人権学習の実践を紹介し、基本的な考え方について解説する。 第14回：人権とは何か（「一人ひとりの違いを認める社会」について）「まとめ」、レポート作成 定期試験</p>			
<p>テキスト 人権・部落問題論（人権・同和问题論）プリント集（そのだひさこ）</p>			
<p>参考書・参考資料等 ケガレ意識と部落差別を考える（辻本正教 著、解放出版社） 日本の中世に何が起きたか（網野善彦 著、洋泉社） 学力を育てる（志水宏吉 著、岩波書店） 同和教育への招待（中野陸夫・池田 寛・中尾健次・森 実 著、解放出版社）</p>			
<p>学生に対する評価 ミニツッペーパー（50%）・レポート等（50%）で総合的に評価を行う。</p>			

授業科目名： 日本国憲法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：城下 健太郎 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 ①日本国憲法でどのようなことが保障されているのかを知り、②実際の場面でどのようなことが問題となっているのかを理解し、③自身の意見を論理的に述べるができること。			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法は私たち個人にとって、普段、日常ではあまり意識されない法律です。ところが、憲法の背後にあるさまざまな原理（国民主権や基本的人権の尊重、平和主義など）は、私たちが生きている現代社会に多くの問題を投げかけています。この講義では、できるかぎり実際の事案を検討しながら、憲法の「しくみ」と「考え方」について解説します。実際に憲法が国家の中で用いられている現状を見ながら、社会の様々な問題への受講者の価値観をできるだけ「柔らかか」なものになるような多様な立場を示してくれるものとして日本国憲法を学んでいきます。</p> <p>受講者の方には自分たちが現在生きている社会状況を常に意識しながら、そこに国家が入り込んでさまざまな問題をもたらすということ自分たち自身の問題として捉えるよう求めます。実際の憲法問題での色々な立場を考えながら自らの立場が正しいかどうかを客観的に考えるという「問題の悩み方」を学習してほしいと思います。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：ガイダンス（憲法とは何か——憲法と法律との違い）</p> <p>第2回：立憲主義の歴史（憲法はどのようにして生まれて、現在の日本国憲法に伝わってきたか）</p> <p>第3回：統治機構①（民主政治はどのように組織されているか——国民主権と国会・内閣）</p> <p>第4回：統治機構②（権力分立はどのように機能・維持されているか——司法の仕組みと独立）</p> <p>第5回：平和主義（憲法9条と平和的生存権）</p> <p>第6回：基本的人権総論①（人権の主体・種類・制限について）</p> <p>第7回：基本的人権総論②（公共の福祉による人権の間の調整）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト『目で見える憲法（第六版）』（初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之・上田健介 著、有斐閣）			
参考書・参考資料等 講義中の配布資料にて適宜、指示します。			
学生に対する評価 100%：定期試験			

授業科目名： 日本国憲法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：城下 健太郎 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 ①日本国憲法でどのようなことが保障されているのかを知り、②実際の場面でどのようなことが問題となっているのかを理解し、③自身の意見を論理的に述べるができること。			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法は私たち個人にとって、普段、日常ではあまり意識されない法律です。ところが、憲法の背後にあるさまざまな原理（国民主権や基本的人権の尊重、平和主義など）は、私たちが生きている現代社会に多くの問題を投げかけています。この講義では、できるかぎり実際の事案を検討しながら、憲法の「しくみ」と「考え方」について解説します。実際に憲法が国家の中で用いられている現状を見ながら、社会の様々な問題への受講者の価値観をできるだけ「柔らかか」なものになるような多様な立場を示してくれるものとして日本国憲法を学んでいきます。</p> <p>日本国憲法Bは、人権の各論的内容を取り扱うため、実際の裁判例を多く取り扱います。人権問題を読み解くための原理や歴史的考察は1クオーター目の日本国憲法Aで取り扱うため、思考の幅を増やしたいならば継続しての履修を勧めます。受講者の方には自分たちが現在生きている社会状況を常に意識しながら、そこに国家が入り込んでさまざまな問題をもたらすということを自分たち自身の問題として捉えるよう求めます。実際の憲法問題での色々な立場を考えながら自らの立場が正しいかどうかを客観的に考えるという「問題の悩み方」を学習してほしいと思います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：幸福追求権（プライバシー・名誉）と表現の自由の対立（犯罪報道を事例として） 第2回：法の下での平等（社会的・経済的不平等はどこまで平等にすべきか？） 第3回：医療・宗教と人権（憲法は人の生死に関わる自己決定をどこまで保障できるか？） 第4回：子どもと人権（学校教育はどこまで子どもの自由を束縛できるか？） 第5回：憲法と経済（経済活動に国家が規制介入することはどこまで許されるか？） 第6回：憲法と福祉国家（国の責務として社会保障はどこまで行わなければならないのか？） 第7回：人身の自由（犯罪捜査を適正化するために憲法はいかなる手段を取っているか？）</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト 『目で見える憲法（第六版）』（初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之・上田健介 著、有斐閣）</p> <p>参考書・参考資料等 講義中の配布資料にて適宜、指示します。</p> <p>学生に対する評価 100%：定期試験</p>			

授業科目名： スポーツ科学演習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：深田 忠徳 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツ科学演習では、以下に示す3つの目標達成を目指す。</p> <p>1) 生涯における健康・体力づくりの必要性と方法を理解し、その向上を自ずから図ることができるようになること。</p> <p>2) 生涯において、スポーツを実践するための基本的運動技能やエチケット、マナーを習得すること。</p> <p>3) 運動・スポーツを通じた人間関係の新規構築・改善・向上など、ストレスマネジメントやメンタルヘルスの維持・改善を図ることができるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツの基本技術習得、およびゲームの楽しさを体験し、健康の保持・増進手段としての生涯スポーツへ繋げる。スポーツ実施だけに留まらず、自分自身の形態・体力に関する問題点や具体的な改善策等を考える。</p> <p>①楽しく身体を動かす。②人間関係をより深める。③ルールや基本技術を修得する。④「礼に始まり礼に終わる」習慣を身につける。⑤自己の体力を認識する。等の内容で授業を展開する。</p> <p>スポーツ実技では、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール等を実施する。</p>			
<p>授業計画 (1コマ100分)</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：種目例：バドミントン ①シャトルとラケット操作 / ②シングルスルール説明 ③基礎練習(フォアハンド、バックハンドでのラリー) / ④シングルスミニゲーム</p> <p>第3回：種目例：バドミントン ①シングルスルール確認 / ②基礎練習(サーブ、ハイクリアー、ドロップ、スマッシュ) ③シングルスゲーム(トーナメント、リーグ戦)</p> <p>第4回：種目例：バドミントン ①ダブルスルール説明 / ②基礎練習(ダブルスでのポジショニング) ③ダブルスゲーム(トーナメント、リーグ戦)</p> <p>第5回：生活習慣病予防に関する講義 / 運動・栄養・休養について</p> <p>第6回：種目例：バスケットボール ①ルール確認 / ②基礎練習 (パス、シュート、ドリブル) / ③ミニゲーム</p> <p>第7回：種目例：バスケットボール ①基礎練習 (パス、シュート、ドリブル) / ②ポジションの確認 / ③ゲーム</p>			

定期試験
テキスト『スポーツ科学演習ノート』
参考書・参考資料等 開講種目の公式ルールブック
学生に対する評価 授業中の①受講態度②意欲③技術④協調性などの評価（60％）、講義等におけるレポート等・定期試験（40％）

授業科目名： スポーツ科学演習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：深田 忠徳 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツ科学演習では、以下に示す3つの目標達成を目指す。</p> <p>1) 生涯における健康・体力づくりの必要性と方法を理解し、その向上を自ずから図ることができるようになること。</p> <p>2) 生涯において、スポーツを実践するための基本的運動技能やエチケット、マナーを習得すること。</p> <p>3) 運動・スポーツを通じた人間関係の新規構築・改善・向上など、ストレスマネジメントやメンタルヘルスの維持・改善を図ることができるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツの基本技術習得、およびゲームの楽しさを体験し、健康の保持・増進手段としての生涯スポーツへ繋げる。スポーツ実施だけに留まらず、自分自身の形態・体力に関する問題点や具体的な改善策等を考える。</p> <p>①楽しく身体を動かす。②人間関係をより深める。③ルールや基本技術を修得する。④「礼に始まり礼に終わる」習慣を身につける。⑤自己の体力を認識する。等の内容で授業を展開する。</p> <p>スポーツ実技では、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール等を実施する。</p>			
<p>授業計画 (1コマ100分)</p> <p>第1回：種目例：卓球</p> <p>①ラケットの操作とフットワーク / ②シングルスルール説明 ③基礎練習(フォアハンド、バックハンドでのラリー) / ④シングルスミニゲーム</p> <p>第2回：種目例：卓球</p> <p>①シングルスルール確認 / ②基礎練習(ラリー、サーブ、スマッシュ) ③シングルスゲーム(トーナメント、リーグ戦)</p> <p>第3回：種目例：卓球</p> <p>①ダブルスルール確認 / ②基礎練習(ダブルスでのポジション、ローテーション) ③ダブルスゲーム(トーナメント、リーグ戦)</p> <p>第4回：形態と体力について</p> <p>形態・体力測定の結果報告と自己評価 / 筋力や体脂肪などの生理学的な基礎知識を得る</p> <p>第5回：種目例：バレーボール</p> <p>①ルール確認 / ②基礎練習 (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ) / ③ミニゲーム</p> <p>第6回：種目例：バレーボール</p>			

①基礎練習基礎練習（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ）

②ポジションの確認 / ③ゲーム

第7回：種目例：バレーボール

①ポジション別の基礎練習(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ)

②三段攻撃 / ③ゲーム

定期試験

テキスト『スポーツ科学演習ノート』

参考書・参考資料等 開講種目の公式ルールブック

学生に対する評価 授業中の①受講態度②意欲③技術④協調性などの評価（60%）、講義等におけるレポート等・定期試験（40%）

授業科目名： Listening & Speaking I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Samuel Taylor
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 流暢なスピーキング力を養い、KSU英語アチーブメントテストでLevel 1（最上級）のスコアを 獲得するために、語彙と文法の知識、リスニング能力を向上させます。			
授業の概要 このコースの目的は、生活、家庭、経験、習慣について詳しく話すことにより、スピーキング 力を向上させ、英語を話すことに自信をつけることである。二次的な目的は、会話能力の向上 、語彙と文法の知識の開発、およびネイティブスピーカーとノンネイティブスピーカーの話す 英語を理解する能力の向上である。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業紹介 / 授業内容：授業について学ぶ 課題：トピック1 言語 第2回：トピック1 / 授業内容：課題テスト、トピック1スピーキングアクティビティ 課題：トピック2の言語 第3回：トピック2 / 授業内容：課題テスト、トピック2スピーキングアクティビティ 課題：トピック3 言語 第4回：トピック 3 / 授業内容：課題テスト、トピック3のスピーキング演習 課題：トピック4の言語 第5回：トピック 4 / 授業内容：課題テスト、トピック4のスピーキング演習 課題：復習 第6回：復習 / 授業内容：トピック 1～4 の復習 課題：復習 第7回：スピーキングテスト1 / 授業内容：スピーキングテスト 課題：トピック5 言語 第8回：トピック 5 / 授業内容：課題テスト、トピック5のスピーキング演習 課題：トピック6の言語 第9回：トピック 6 / 授業内容：課題テスト、トピック6のスピーキング演習 課題：トピック7 言語 第10回：トピック 7 / 授業内容：課題テスト、トピック7のスピーキング演習 課題：トピック8言語 第11回：トピック 8 / 授業内容：課題テスト、トピック8のスピーキング演習 課題：復習 第12回：復習2 / 授業内容：トピック 4～8 の復習 課題：復習 第13回：スピーキングテスト2 / 授業内容：スピーキングテスト 課題：最終復習 第14回：授業のまとめ 定期試験			
テキスト Go on Speaking 1 (Michael McAuliffe、XLearning Systems 合同会社)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 30% 授業、30% スピーキングテスト、20% e-Learning、10% 授業内最終テ スト、10% 学期末KSU アチーブメントテスト			

授業科目名： Listening & Speaking II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Samuel Taylor
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 流暢なスピーキング力を養い、KSU英語アチーブメントテストでLevel 1（最上級）のスコアを 獲得するために、語彙と文法の知識、リスニング能力を向上させます。			
授業の概要 このコースの目的は、生活、家庭、経験、習慣について詳しく話すことにより、スピーキング 力を向上させ、英語を話すことに自信をつけることである。二次的な目的は、会話能力の向上 、語彙と文法の知識の開発、およびネイティブスピーカーとノンネイティブスピーカーの話す 英語を理解する能力の向上である。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業紹介 / 授業内容：授業について学ぶ 課題：トピック9 言語 第2回：トピック 9 / 授業内容：課題 テスト, トピック 9 スピーキングアクティビティ 課題：トピック 10 言語 第3回：トピック 10 / 授業内容：課題 テスト, トピック 10 スピーキングアクティビティ 課題：トピック 11 言語 第4回：トピック 11 / 授業内容：課題 テスト, トピック 11 スピーキングアクティビティ 課題：トピック 12 言語 第5回：トピック 12 / 授業内容：課題 テスト, トピック 12 スピーキングアクティビティ 課題：復習 第6回：復習 3 / 授業内容：復習 トピックス 9 ~ 12 課題：復習 第7回：スピーキングテスト 3 / 授業内容：スピーキングテスト 課題：トピック 13 言語 第8回：トピック 13 / 授業内容：課題 テスト, トピック 13 スピーキングアクティビティ 課題：トピック 14 言語 第9回：トピック 14 / 授業内容：課題 テスト, トピック 14 スピーキングアクティビティ 課題：トピック 15 言語 第10回：トピック 15 / 授業内容：課題 テスト, トピック 15 スピーキングアクティビティ 課題：トピック 16 言語 第11回：トピック 16 / 授業内容：課題 テスト, トピック 16 スピーキングアクティビティ 課題：復習 第12回：復習 2 / 授業内容：復習 トピックス 13 ~ 16 課題：復習 第13回：スピーキングテスト 4 / 授業内容：スピーキングテスト 課題：最終復習 第14回：授業のまとめ 定期試験			
テキスト Go on Speaking 1 (Michael McAuliffe、XLearning Systems 合同会社)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 30% 授業、30% スピーキングテスト、20% e-Learning、10% 授業内最終テス ト、10% 学期末KSU アチーブメントテスト			

授業科目名： Listening & SpeakingⅢ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Samuel Taylor 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 KSU 英語アチーブメントテストレベル1（最上級）程度の英語力を習得すること。			
授業の概要 このクラスは、学生の基礎的英語リスニング能力およびスピーキング能力の向上を目的としています。このクラスの学生の主要目的は、学期末に実施されるKSU 英語アチーブメントテストでLevel 1（最上級）のスコアを獲得することです。このクラスでは、基礎的語彙および会話に必要な表現を使いこなせるようになるために取り組みます。これらの目的を達成させるために、学生は週ベースでのオンライン課題および紙ベースでの課題を完了していくことが期待されます。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業紹介（期待値、成績評価基準、必要な教科書など） / eラーニングの自己登録 第2回：ユニット 0:それはあなたの苗字ですか？ / テーマ/トピックエリア：授業概要 リスニングの特徴：弱母音 スピーキング戦略：確認 - クラスでの英語、質問 語彙課題：リスト1 / eラーニング：Spotline 第3回：ユニット 0:それはあなたの苗字ですか？（継続） / テーマ/トピックエリア：授業概要 リスニングの特徴：弱母音 スピーキング戦略：確認 - クラスでの英語、質問 語彙課題：リスト2 eラーニング：Spotline 第4回：ユニット 1: あなたは列に並んでいますか？ / テーマ/トピックエリア：会話の構築 リスニングの特徴：パターンから意味を推測する スピーキング戦略：巻き込み - コメントで答える 語彙課題：リスト3 / eラーニング:Spotline 第5回：ユニット 1: あなたは列に並んでいますか？（継続） テーマ/トピックエリア：会話の構築 リスニングの特徴：パターンから意味を推測する スピーキング戦略：巻き込み - コメントで答える 語彙課題：リスト3 / eラーニング:Spotline 第6回：ユニット2:あなたはそれを何と呼ぶ？ テーマ/テーマ領域：物の描写 リスニングの特徴：消える音、つながる音 スピーキング戦略：知らない単語を中心に話す 語彙課題：リスト5 / eラーニング: myWord (List 5), SpotLine. 第7回：ユニット2:あなたはそれを何と呼ぶ？（継続） テーマ/テーマ領域：物の描写 リスニングの特徴：消える音、つながる音 スピーキング戦略：知らない単語を中心に話す 語彙課題復習：リスト1-5 / eラーニング: SpotLine. 第8回：ユニット0-2の復習 / 語彙課題1-5の復習 / 語彙課題：リスト6 eラーニング：SpotLine 第9回：ユニット 3: 旅行はいかがでしたか？ テーマ/トピックエリア:ストーリーテリング			

<p>リスニングの特徴:消える音 / スピーキング戦略: 補償 - 言い換え 語彙課題: リスト7 / eラーニングSpotLine</p> <p>第10回: ユニット 3: 旅行はいかがでしたか? (継続) テーマ/トピックエリア: ストーリーテリング / リスニングの特徴: 消える音 スピーキング戦略: 補償 - 言い換え / 語彙課題: リスト8 / eラーニングSpotLine</p> <p>第11回: ユニット4: シアトル東部 テーマ/テーマトピック: 都市の描写 リスニングの特徴: 文の強調と弱母音 スピーキング戦略: 巻き込み - バックチャンネルと聞き取り音 語彙課題: リスト9 / eラーニング: SpotLine</p> <p>第12回: ユニット4: シアトル東部 テーマ/テーマトピック: 都市の描写 リスニングの特徴: 文の強調と弱母音 スピーキング戦略: 巻き込み - バックチャンネルと聞き取り音 語彙課題: リスト10 / eラーニング: SpotLine</p> <p>第13回: 復習: ユニット0-4 / 復習: 語彙リスト1-10</p> <p>第14回: ユニット0~4の「TOEIC Space」(セクション16)の復習 前学期到達度テストのまとめと準備(リスニングセクション中心) / 学習進捗報告 定期試験</p>
<p>テキスト Communication Spotlight 6 (GREEN) (Alastair Graham-Marr, ABAX ELT Publishers)</p>
<p>参考書・参考資料等 なし</p>
<p>学生に対する評価 20% eラーニングの課題 (SpotLine)、10% 学期末アチーブメントテスト、10% 学期末語彙力テスト、60% 教科書内容に基づくテスト及び課題</p>

授業科目名： Listening & SpeakingIV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Samuel Taylor
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 レベル1（最上級）程度の英語力を習得すること。			
授業の概要 このクラスは、学生の基礎的英語リスニング能力およびスピーキング能力の向上を目的としています。このクラスでは、基礎的語彙および会話に必要な表現を使いこなせるようになるために取り組みます。これらの目的を達成させるために、学生は週ベースでのオンライン課題および紙ベースでの課題を完了していくことが期待されます。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業紹介（期待値、成績評価基準、必要教材など） eラーニング登録（前学期に登録しなかった学生のみ） 第2回：ユニット 5：人口は？ テーマ/トピックエリア：大きな数字を流暢に話す リスニングの特徴：音調グループの理解 スピーキング戦略：マネジメント - 繰り返し練習 語彙課題：リスト11 / eラーニング：Spotline 第3回：ユニット 5：人口は？ テーマ/トピックエリア：大きな数字を流暢に話す リスニングの特徴：音調グループの理解 スピーキング戦略：マネジメント - 繰り返し練習 語彙課題：リスト12 / eラーニング：Spotline 第4回：ユニット 6：観戦チケット テーマ/トピックエリア：当面の将来について話す リスニングの特徴：カジュアルイングリッシュ スピーキング戦略：マネジメント - ためらいの工夫、思考音 語彙課題：リスト13 / eラーニング：Spotline 第5回：ユニット 6：観戦チケット(継続) テーマ/トピックエリア：当面の将来について話す リスニングの特徴：カジュアルイングリッシュ スピーキング戦略：マネジメント - ためらいの工夫、思考音 語彙課題：リスト14 / eラーニング：SpotLine 第6回：ユニット 7：学生時代... テーマ/トピックエリア：過去の経験について話す、学校について話す リスニングの特徴：パターンから意味を推測する スピーキング戦略：言い換えやその他の戦略 語彙課題：リスト15 / eラーニング：SpotLine 第7回：ユニット 7：学生時代... テーマ/トピックエリア：過去の経験について話す、学校について話す リスニングの特徴：パターンから意味を推測する スピーキング戦略：言い換えやその他の戦略 語彙課題復習：リスト1- 5 / eラーニング：SpotLine 第8回：ユニット5-7の復習 / 語彙リストの復習 11-15 / 語彙課題：リスト16			

<p>eラーニング:SpotLine</p> <p>第9回:ユニット 8: ここで3週間働いています テーマ/トピックエリア:最近のことについて話す リスニングの特徴:カジュアルイングリッシュ スピーキング戦略:巻き込み - 詳細化 語彙課題: リスト17 / eラーニング: SpotLine</p> <p>第10回:ユニット 8: ここで3週間働いています(継続) テーマ/トピックエリア:最近のことについて話す リスニングの特徴:カジュアルイングリッシュ スピーキング戦略:巻き込み - 詳細化 語彙課題: リスト18 / eラーニング: SpotLine</p> <p>第11回:ユニット 9: 授業はいつ始まるのか? テーマ/トピックエリア:情報を求める リスニングの特徴:パターンから意味を推測する スピーキングの戦略 代償-wh-とyes/noの質問をする 語彙課題: リスト19 / eラーニング: SpotLine</p> <p>第12回:ユニット 9: 授業はいつ始まるのか? テーマ/トピックエリア:情報を求める リスニングの特徴:パターンから意味を推測する スピーキングの戦略 代償-wh-とyes/noの質問をする 語彙課題: リスト20 / eラーニング: SpotLine</p> <p>第13回:ユニット5-9の復習 / 語彙リスト11-20の復習</p> <p>第14回:ユニット5-9 「TOEICスペース」 (セクション16) の復習 / 学習進捗報告 定期試験</p>
<p>テキスト Communication Spotlight 6 (GREEN) (Alastair Graham-Marr、ABAX ELT Publishers)</p>
<p>参考書・参考資料等 なし</p>
<p>学生に対する評価 20% eラーニングの課題 (SpotLine)、10% 学期末語彙力テスト、 70% 教科書内容に基づくテスト及び課題</p>

授業科目名： English Plus A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Jonathan Shachter
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 リーディング、ライティング、クリティカル・シンキング（批判的思考）のスキルを中級レベルで向上させる。			
授業の概要 この授業は、中級英語レベルでリーディング及びライティング能力を向上させることを目的としています。そのために、多読と精読の両方を行い、基本的な英語構文を認識、理解、使用する能力を養います。さらに、ライティングの課題を提出し、学期を通して上達度を示すことが求められます。語彙力の向上も評価されます。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業紹介、シラバス、成績評価、受講者に対しての期待事項 第2回：Unit 1: 社会学 第3回：Unit 2: 文化研究 第4回：Unit 3: 心理学 第5回：Unit 4: 健康 第6回：ライティングプロジェクト1 第7回：Unit1からUnit4までの復習 定期試験			
テキスト Oh What a Lovely War (Student Editions)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 Xリーディング（課題）：29%、Eラーニング：29%、クラス課題：29%、定期試験：13%			

授業科目名： English Plus B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Jonathan Shachter
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 リーディング、ライティング、クリティカル・シンキング（批判的思考）のスキルを中級レベルで向上させる。			
授業の概要 この授業は、中級英語レベルでリーディング及びライティング能力を向上させることを目的としています。そのために、多読と精読の両方を行い、基本的な英語構文を認識、理解、使用する能力を養います。さらに、ライティングの課題を提出し、学期を通して上達度を示すことが求められます。語彙力の向上も評価されます。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業紹介 / シラバス、成績評価、受講者に対しての期待事項 Unit 5: 文化研究 第2回：Unit 6: メディア研究 第3回：Unit 7: キャリア研究 第4回：Unit 8: 歴史 第5回：ライティングプロジェクト2 第6回：試験準備及びe-Learningの進捗確認 第7回：Unit 5 から Unit 8 の復習 定期試験			
テキスト Gary Pathare			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 Xリーディング（課題）：29%、Eラーニング：29%、クラス課題：29%、定期試験：13%			

授業科目名： English Expressions A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：河野 賢司 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英文戯曲を読解し、現代英語の口語表現に習熟する。英語表現を幅広く運用する力を身につける。			
授業の概要 英文戯曲（133頁）をテキストに用い、毎回10頁ほど読み進める方針です。慣用句や構文、語彙などの英語表現についてテキストを題材に学びます。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業方針の説明、テキストや著者の紹介 （各回の進行頁は開講時に通知します。本作は反戦ミュージカルで、30曲余りの挿入歌があり、以下にはその一例をタイトルで示します。） 第2回：“Row, Row, Row”, “Belgium Put the Kibosh on the Kaiser” 第3回：“Are We Downhearted?”, “Hold Your Hand Out, Naughty Boy” 第4回：“I’ll Make a Man of You”, “Hitchy — Koo” 第5回：“Christmas Day in the Cookhouse”, “Good Bye — ee” 第6回：“Oh It’s a Lovely War”, “Gassed Last Night” 第7回：“Hush, Here Comes a Whizzbang”, “There’s a Long, Long Trail”, “Rule, Britannia”			
定期試験			
テキスト Oh What a Lovely War (Student Editions)			
参考書・参考資料等 素晴らしき戦争 スペシャル・コレクターズ・エディション [DVD]			
学生に対する評価 定期試験60点、授業における訳読発表40点とする。			

授業科目名： English Expressions B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：河野 賢司 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英文戯曲を読解し、現代英語の口語表現に習熟する。英語表現を幅広く運用する力を身につける。			
授業の概要 英文戯曲（133頁）をテキストに用い、毎回10頁ほど読み進める方針です。慣用句や構文、語彙などの英語表現についてテキストを題材に学びます。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業方針の説明、テキストや著者の紹介 “I Don't Want To Be a Soldier”, “Kaiser Bill”, “They Were Only Playing Leapfrog” 第2回：“If You Want the Old Battalion”, “Far Far From Wipers” 第3回：“If the Sergeant Steals Your Rum”, “I Wore a Tunic”, “Forward Joe Soap's Army” 第4回：“Fred Karno's Army”, “When This Lousy War Is Over”, “I Want To Go Home” 第5回：“The Bells of Hell”, “Keep the Home Fires Burning”, “And When They Ask Us” 第6回：まとめと「クラス内期末テスト」（60点） 第7回：正答例解説 定期試験			
テキスト Oh What a Lovely War (Student Editions)			
参考書・参考資料等 素晴らしき戦争 スペシャル・コレクターズ・エディション [DVD]			
学生に対する評価 筆記試験60点、授業における訳読発表40点とする。			

授業科目名： Four Skills I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Nicholas Bovee 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では 1)頻度の高い英単語200語の習得を目指す、2)自主学習やクラスでのディスカッションを通して、自然な英語に触れることでスピーキングとリスニングの流暢さを身につける、3)リーディングのスピードと理解力を向上させるための様々なスキルを学ぶ、4)体系的な練習とフィードバックを通してライティングのスキルを身につける、5)TOEICの準備をする。			
授業の概要 この授業は、KSUプレイスメントテストまたは学期末の実力テスト（TOEIC）で「レベル1-最上級」を取得した学生を対象としている。この授業は、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを総合的に伸ばすことを目的とした集中的かつ広範な課題を組み合わせています。授業では、グループワークや共同活動を重視し、「アクティブ・ラーニング」を促進する。この授業形式のメリットを最大限に生かすためには、与えられた自主学習課題を適時に完了することが不可欠である。授業終了時には、受容的スキルと生産的スキルの両方の基礎が身につけ、日常生活の様々なトピックや状況に自信を持って英語で対応できるようになります。学期末にはTOEIC500点以上を目指します。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：授業概要（内容、期待事項、教材、評価等） 導入活動とアイスブレイク 課題：トピック1 言語 第2回：課題解説 語彙：熟達した文章、コロケーション、KSU単語帳の紹介 リーディング：多読とXreadingアプリの紹介 第3回：トピック1：教育 クラスワーク：課題テスト、トピック1のスピーキング演習 課題：トピック2 言語 第4回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：Xreading、ライティング、リスニング 第5回：トピック2：祭り クラスワーク：課題テスト、トピック2のスピーキング演習 課題：トピック3の言語 第6回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：Xreading、ライティング、リスニング 第7回：トピック3：食とダイエット クラスワーク：課題テスト、トピック3のスピーキング演習 課題：トピック4 言語 第8回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング			

<p>第9回：トピック 4: グローバルな課題 クラスワーク：課題テスト、トピック4のスピーキング演習 課題：復習</p> <p>第10回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング</p> <p>第11回：復習 クラスワーク：トピック1-4の復習 課題：復習</p> <p>第12回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング</p> <p>第13回：スピーキングテスト クラスワーク：スピーキングテスト</p> <p>第14回：中間評価 定期試験</p>
<p>テキスト Go On Speaking - Advanced、Xreading VL、KSU Wordbook</p>
<p>参考書・参考資料等 なし</p>
<p>学生に対する評価 20% 授業内活動、20% 課題（eラーニングおよびXreadingを含む） 10% 実力テスト（TOEIC）、50% 定期試験</p>

授業科目名： Four Skills II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Nicholas Bovee
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では 1)頻度の高い英単語200語の習得を目指す、2)自主学習やクラスでのディスカッションを通して、自然な英語に触れることでスピーキングとリスニングの流暢さを身につける、3)リーディングのスピードと理解力を向上させるための様々なスキルを学ぶ、4)体系的な練習とフィードバックを通してライティングのスキルを身につける、5)TOEICの準備をする。			
授業の概要			
この授業は、KSUプレイスメントテストまたは学期末の実力テスト（TOEIC）で「レベル1-最上級」を取得した学生を対象としています。このコースでは、「4技能1」の基礎の上に、より複雑で難易度の高い課題を通して、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルをさらに伸ばすことに重点を置いています。学生は、より深い分析とコミュニケーションの強化を促す様々な共同活動に取り組みます。自主学習はこのコースの重要な部分であり、学生がスキルを強化し、より高度な課題に備えるのに役立ちます。授業終了時には、日常生活における様々なトピックやシチュエーションに対応できる流暢さと自信、そして様々な文脈における実践的なコミュニケーション能力を身につけることができます。TOEIC500点以上を目指します。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：授業概要（内容、期待、教材、評価など） 入門アクティビティ 課題：トピック5 言語			
第2回：課題解説 語彙：熟達した文章、コロケーション、KSU単語帳の紹介 リーディング：多読とXreadingアプリの紹介			
第3回：トピック5：幸福 クラスワーク：課題テスト、トピック5のスピーキング演習 課題：トピック5の言語			
第4回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング			
第5回：トピック6：故郷 クラスワーク：課題テスト、トピック6のスピーキング演習 課題：トピック6の言語			
第6回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング			
第7回：トピック7：私の部屋、私のもの クラスワーク：課題テスト、トピック7のスピーキング演習 課題：トピック7の言語			

<p>第8回： クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング</p> <p>第9回：トピック8：成功 クラスワーク 宿題テスト、トピック8のスピーキング演習 宿題 復習</p> <p>第10回：クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング</p> <p>第11回：復習 クラスワーク：トピック 5-8 の復習 課題：復習</p> <p>第12回： クラスワーク：リーディング、ライティング、語彙活動 課題：XReading、ライティング、リスニング</p> <p>第13回： スピーキングテスト クラスワーク：スピーキングテスト</p> <p>第14回：授業のまとめ 定期試験</p>
テキスト Go On Speaking - Advanced、Xreading VL、KSU Wordbook
参考書・参考資料等 なし
<p>学生に対する評価 20% 授業内活動、20% 課題（eラーニングおよびXreadingを含む） 10% 実力テスト（TOEIC）、50% 定期試験</p>

授業科目名： TOEIC Basic A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： David Johnson
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、TOEIC Listening and Reading Testで優れた成績を収めるために必要な受験戦略と言語スキルを身につけます。			
授業の概要			
この授業は、学生が試験で成功するために必要なツールと戦略を身につけることを目的としています。TOEIC受験に必要なスキルを身につけ、TOEICによく出題される文法や言語的特徴を強化し、テストに頻出する100以上のビジネス語彙の知識を広げることに重点を置いています。的を絞った練習と実践的な応用を通して、受講生は自信をつけ、テストと実社会の両方のプロフェッショナルな場面で優れた能力を発揮できるようになります。学期末にはTOEIC550点以上を目指します。			
授業計画 (1コマ100分)			
第1回： 授業紹介 (授業内容、学生に対する期待事項、教材、評価等) 導入アクティビティ及びアイスブレイキング TOEICについての紹介			
第2回： Unit 1: リスニング (写真) - 写真を使って聞こえたことを予測する			
第3回： Unit 2: リスニング (質疑応答) - 実際の質問の意味を考える			
第4回： Unit 3: リスニング (会話) - 聞く前に文脈を予測するためのスキミング			
第5回： Unit 4: リスニング (談話) - 聞く前に文脈を予測するためのスキミング			
第6回： Unit 7: リーディング (読解) - どの質問から答えるかを決めるための質問のスキミング			
第7回： 前半語彙テスト (Unit1, 2, 3, 4, 7) ユニット5と6の課題提出 (ユニット内容と語彙活動) コースのまとめと復習			
定期試験			
テキスト Tactics for TOEIC Listening and Reading Test			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 20%:語彙の宿題、20%:語彙テスト、 10%:実力テスト (TOEIC) 、 50%:クラスワーク・eラーニング・教科書ベースの課題・定期試験			

授業科目名： TOEIC Basics B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： David Johnson
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
このコースでは、TOEIC Listening and Reading Testで優れた成績を収めるために必要な受験戦略と言語スキルを身につけます。			
授業の概要			
この集中TOEIC準備コースでは、基礎的なスキルを身につけると同時に、より高度な受験ストラテジーを導入し、試験の難関セクションに挑みます。複雑な文法パターンの理解を深め、言語構造を分析する能力を磨き、TOEICでよく出題される100以上のビジネス関連語彙をマスターします。集中的な練習と実戦的なシナリオに取り組むことで、試験の成績をさらに伸ばし、専門的な環境での実践的な語学力を身につけます。TOEIC550点以上を目指します			
授業計画 (1コマ100分)			
第1回： Unit 8:リスニング (写真) - 正しい動詞を聞き分ける			
第2回： Unit 9:リスニング (質問と回答) - 直接的な質問に対する様々な答え方に慣れる / 似たような響きの言葉に気づく			
第3回： Unit10:リスニング (会話) - 同じ単語を意識する			
第4回： Unit11:リスニング (談話) - 様々な種類の「What」質問に慣れる			
第5回： Unit12:リーディング (不完全な文) - 属格と不定詞を正しく選ぶ			
第6回： Unit14:リーディング (読解) - 語彙の質問に答えるために文脈を利用する / 意味を推測するために学んだことを利用する			
第7回： 語彙テスト (Unit8, 9, 10, 11, 12, 14) Unit13の課題提出 (Unit内容と語彙活動) 授業のまとめと復習			
定期試験			
テキスト Tactics for TOEIC Listening and Reading Test			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 20%:語彙の宿題、20%:語彙テスト、10%:実力テスト (TOEIC) 、 50%:クラスワーク・eラーニング・教科書ベースの課題・定期試験			

授業科目名： TOEIC Plus A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： Nicolas Emerson
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、TOEIC Listening and Reading Testで優れたスコアを取るために必要な受験戦略と言語スキルを身につけます。			
授業の概要 この授業は、TOEIC450～700点を目指す中級レベルの学生を対象としています。この授業では、TOEICテストに即応できる数多くの受験スキルや、テストに頻繁に出題される文法やその他の言語的特徴について学びます。また、TOEICに頻出する1,200語以上の語彙もカバーしています。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：概要（内容、学生に対する期待、教材、評価など） TOEICのポイント紹介 プレテスト（TOEICテストに基づいた50問のテスト） 第2回：Unit1：食べ物とレストラン/名詞 第3回：Unit2：娯楽/代名詞 第4回：Unit3：旅行/助動詞 第5回：Unit4：スポーツと健康/形容詞 第6回：Unit5：購入/時制（1）現在進行形 第7回：Unit6：住居と宿泊施設/時制（2）過去形と現在完了形 定期試験			
テキスト Fast Pass for the TOEIC® L&R TEST, Revised Edition			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 25%:語彙課題、25%:語彙テスト、25%:授業内評価・定期試験、25%:熟練度テスト（TOEIC）			

授業科目名： TOEIC Plus B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Nicolas Emerson
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、TOEIC Listening and Reading Testで優れたスコアを取るために必要な受験戦略と言語スキルを身につけます。			
授業の概要 この授業は、TOEIC450～700点を目指す中級レベルの学生を対象としています。この授業では、TOEICテストに即応できる数多くの受験スキルや、テストに頻繁に出題される文法やその他の言語的特徴について学びます。また、TOEICに頻出する1,200語以上の語彙もカバーしています。			
授業計画 (1コマ100分) 第1回：概要 (内容、学生に対する期待、教材、評価など) TOEICのポイント紹介 プレテスト (TOEICテストに基づいた50問のテスト) Unit 7 : 事務仕事 (1) / 一般動詞と不定詞 第2回：Unit 8 : 事務仕事 (2) / 前置詞 第3回：Unit 9 : 雇用 / 比較級 第4回：Unit 10 : 講義とプレゼンテーション / 仮定法 第5回：Unit 11 : 業務 (1) / 関係詞 第6回：Unit 12 : 業務 (2) / 接続詞 第7回：教科書内容の復習 事後テスト (TOEICテストに基づいた50問のテスト)			
定期試験			
テキスト Fast Pass for the TOEIC® L&R TEST, Revised Edition			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 25%:語彙課題、25%:語彙テスト、25%:授業内評価・定期試験、25%:熟練度テスト (TOEIC)			

授業科目名： AI導入	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：猪本 修 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AIとは何かを説明できる。 ・ AIの仕組みを説明できる。 ・ AIの活用、データ保護において留意事項を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>科学技術の進歩発達により、今まで人が手作業で行っていた業務が人工知能（AI）システムへ代替可能となってきている。また、人間に実現できなかったことがAIによって実現可能となるなど、これからも新たなAIが作成され、社会が変化することが予想できる。この変化する社会に対応していくには、AIとは何か、また、AIによって何を解決できるのかを理解する必要がある。本講義では、AIが社会における与える影響を学び、AIの技術的な仕組みについて学ぶ。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：ガイダンス / 人工知能（AI）とは何か</p> <p>第2回：AIの歴史</p> <p>第3回：AI利活用のための技術</p> <p>第4回：AIの種類と特徴 / 教師あり学習，教師なし学習，強化学習</p> <p>第5回：ニューラルネットワーク(Neural Network)とは</p> <p>第6回：データを扱う上での留意事項，AI倫理（個人情報保護，データの改ざんと捏造）</p> <p>第7回：全体のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業中の確認テスト(40%)、期末試験(60%)の総合点(100%)で評価を行う。			

授業科目名： プログラミング導入	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：林 政喜 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 御構文を理解し、論理的にプログラムを組み立てることができることを目標とする。			
授業の概要 近年、データサイエンスや人工知能（AI）の急速な発展に伴い、それらを活用できるデジタル人材の重要性が増している。デジタル技術を真に活用するためには、プログラミング技術の理解と応用が不可欠であり、単にツールを使うだけでなく、その仕組みを深く理解することが求められる。本講義では、プログラミングの制御構文である、条件分岐、繰り返しを学習する。本講義の目的は、プログラミングに関する基礎知識を深め、受講者のプログラミング学習を促進することである。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：プログラミングとは 第2回：プログラミング基礎1 / 変数の宣言、算術演算子、比較演算、論理演算 第3回：プログラミング基礎2 / 条件分岐、インデント、関数 第4回：プログラミング演習1 / 代入、条件分岐、関数 第5回：プログラミング基礎3 / 繰り返し、二重ループ 第6回：プログラミング演習2 / 繰り返し 第7回：まとめ			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 小テスト・定期試験(50%)、プログラミング演習(50%)			

授業科目名： データサイエンス基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：中世古 貴彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の企画、実施、分析、報告といった一連のプロセスを理解し、適切な分析方法を選択できる。 ・ データの収集、分析、報告等の際に陥りやすい誤謬を理解し、回避できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、高度な数理的分析を行う前提となる、データの読み方や考え方に関する基本的事項について学ぶ。データの尺度に応じた様々な整理方法（図表の描き方など）、平均値や分散などの初歩的な統計量等について、様々な事例を取り上げながら解説する。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：データの種類・尺度・質的変数の要約を中心に</p> <p>第3回：データの要約：量的変数を中心に</p> <p>第4回：データの可視化：2変数の要約</p> <p>第5回：データの標準化と相関係数</p> <p>第6回：回帰分析の基礎</p> <p>第7回：総括：総合演習と解説</p> <p>定期試験</p>			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 なし			
<p>学生に対する評価 ・ 授業への貢献（積極的な発言、質問等）（約30%） ・ ミニッツペーパー、小テスト等の提出物、定期試験（約70%）</p>			

授業科目名： データリテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：中世古 貴彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の企画、実施、分析、報告といった一連のプロセスを理解し、適切な分析方法を選択できる。 ・データの収集、分析、報告等の際に陥りやすい誤謬を理解し、回避できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、高度な数理的分析を行う前提となる、データの読み方や考え方に関する基本的事項について学ぶ。相関関係と因果関係との違い、母集団と標本との関係、信頼性と妥当性、調査・分析に関わる様々なバイアス等について、様々な事例を取り上げながら解説する。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：（疑似）相関関係と因果関係（の違い）</p> <p>第2回：データの収集・分析のサイクル</p> <p>第3回：母集団と標本（1）：統計的推論と無作為抽出</p> <p>第4回：母集団と標本（2）：サンプリングの様々な留意点</p> <p>第5回：見えないものを測る？：尺度の信頼性と妥当性</p> <p>第6回：測り過ぎ？：測定の過信がもたらすデメリット</p> <p>第7回：総括：総合演習と解説</p> <p>定期試験</p>			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 なし			
<p>学生に対する評価 ・授業への貢献（積極的な発言、質問等）（約30%） ・ミニッツペーパー、小テスト等の提出物、定期試験（約70%）</p>			

授業科目名： プログラミング入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：合志 和晃 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 [1]コンピュータの基本的な操作が可能である。 [2]資料に基づいてプログラムの入力と実行が可能である。 [3]プログラミングについての基本的な用語の説明が可能である。 [4]自分の開発したプログラムについて説明が可能である。			
授業の概要 この授業では、コンピュータの操作やプログラミングに慣れるための導入科目として、プログラム開発とレポート作成を演習形式で体験的に学ぶ。プログラムの入力や実行といったパソコンの操作に慣れるとともに、プログラミングに関連した基本的な用語の理解を目標とする。グラフィックスや音やアニメーションを含むプログラム開発と開発したプログラムについてのレポート作成を通して、コンピュータの基本操作やプログラムの仕組みについて理解を深める。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：（疑似）相関関係と因果関係（の違い） 第2回：データの収集・分析のサイクル 第3回：母集団と標本（1）：統計的推論と無作為抽出 第4回：母集団と標本（2）：サンプリングの様々な留意点 第5回：見えないものを測る？：尺度の信頼性と妥当性 第6回：測り過ぎ？：測定の過信がもたらすデメリット 第7回：総括：総合演習と解説 定期試験			
テキスト 見ひらきで学べるJavaプログラミング（古井陽之助、神屋郁子、下川俊彦、合志和晃 著、近代科学社）			
参考書・参考資料等 デザイン言語 Processing入門 - 楽しく学ぶコンピューショナルデザイン（三井 和男 著、森北出版）			
学生に対する評価 課題プログラムについてのレポート 40%、演習点（複数回の合計）40%、定期試験 20%			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松原 岳行 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○教育の基礎理論や教育思想史のエッセンスを知るとともに、現代における教育課程の意義を理解し、それらについて説明することができる。（知識・理解）</p> <p>○教育に関する基礎知識を積み重ねることによって、さまざまな教育事象を原理的に把握する技能と表現力を身につけることができる。（技能・表現）</p> <p>○現代教育の礎を築いたとされる近代教育思想を学び、具体的な教育問題の現状分析や打開策などについて主体的に考察しようとする意欲を示すことができる。（関心・意欲）</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、教職課程コアカリキュラムにおいて「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を必要事項として含むことが求められている「教育の基礎的理解に関する科目」であり、さまざまな教育理念や教育思想を歴史的に概観しながら、教育の本質と意義について多角的に考察することを目的としている。具体的には、人間にとっての教育の重要性、教育行為の諸側面、近代学校制度の成立史、近代教授学、教育思想史における「こども」観の変遷、ペスタロッチやフレーベル等の教育思想、公教育の理念、体系的教育学の成立、児童中心主義教育の登場、教育課程の意義や編成方法など、教育に関する基礎理念や歴史についての講義を行う。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：教育原理ガイダンス 講義概要や講義計画の説明を聞き、いま「教育」に何が求められているかを予備的に理解する。</p> <p>第2回：教育的存在としての人間 「人間とは教育されなければならない唯一の被造物である」というカントの言葉を手がかりに、教育的存在としての人間のエートスを理解する。</p> <p>第3回：教育の諸相 養育、文化伝達、社会化、人格形成など、「教育」という営為の諸相を、多角的かつ具体的に分析する。</p> <p>第4回：教育の原風景 「教育」という言葉から何を連想し、どのような光景をイメージするか。このテーマをめぐり学生自身がレポートを作成する。</p> <p>第5回：近代学校制度の成立 近代社会における「教育」（学校教育を通じた次世代育成システム）の成立経緯を知り、現代の教育制度の根幹を理解する。</p> <p>第6回：近代教授学 教授学の祖であるコメニウスの思想を手がかりにしながら、わかりやすい授業、効果的な教授方法について考察する。</p> <p>第7回：「こども」の発見 ロックやルソーなどに代表される近代思想家によって提示されたこども観を歴史的に概観し、「こども」の本質を理解する。</p>			

第8回：公教育の理念	近代学校制度の確立期に目を向け、教育の機会均等や無償制など現代の教育制度を支える公教育理念の意義を確認する。
第9回：近代教育思想	ペスタロッチの教育思想と教育実践を学び、学校教育および家庭教育の意義について考察する。
第10回：幼児教育思想	フレーベルの教育思想の特質を踏まえ、幼児教育における「遊び」の意義について理解する。
第11回：教育学の体系化	ヘルバルトの教授段階説や学習指導要領などを手がかりにしながら、意図的かつ計画的な教育課程の重要性を理解する。
第12回：児童中心主義の教育	デューイやシュタイナーなどに代表される児童中心主義の教育思想の特質を理解する。
第13回：教育課程の意義とその編成	教育課程の意義を再確認するとともに、どのような教育課程＝カリキュラムを編成することが効果的なのかを考察する。
第14回：授業の振り返りと総括	教育原理の講義を通して学生自身が学んだことをまとめ、講義全体の総括を行う。
定期試験	
テキスト	教育原理 テキスト&ノート（松原岳行著、九州産業大学教職課程出版）
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	受講態度15%、レポート15%、期末試験70%の割合で、到達目標への達成度を総合的に評価する。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中神 智文、楊 川 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 教職の意義、教員の役割や職務内容等について多角的に理解できるようになる。</p> <p>② 教職に対する受講者自身の適性を確認し、課題とその解決方法を発見できるようになる。</p> <p>③ 授業中の演習作業等を通じて、他者と協働し創造力を発揮できるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義は、教職を目指す学生の入門科目であり、現代社会における教職の重要性を踏まえた教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等を理解することによって教職への意欲を高めるとともに、自らの適性も確認しながら教職を目指すための課題と解決策を学びます。※本講義は、教員としての実務経験を活かして授業する。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：「ガイダンス」（担当：中神智文） 本講義の意義（教職の意義）と目的を確認し、講義内容や評価方法等について説明します。</p> <p>第2回：「教員養成①」（担当：楊川） 教員養成の歴史と理念を学修します。</p> <p>第3回：「教員養成②」（担当：楊川） 教員養成の現在、免許制度を学修します。</p> <p>第4回：「教職の意義」（担当：中神智文） 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を学修します。</p> <p>第5回：「教員の職務内容①」（担当：中神智文） 児童生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を学修します。</p> <p>第6回：「教員の職務内容②」（担当：中神智文） 第5回に続き、児童生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を学修します。</p> <p>第7回：「教員の職務内容③」（担当：中神智文） 生徒指導、部活動指導を中心に教員の職務の全体像について学修します。</p> <p>第8回：「教職の特性」（担当：楊川） 教職の職業的特徴および労働条件を学修します。</p> <p>第9回：「教員の役割」（担当：楊川） 今日の教員に求められる役割および基礎的な資質能力を学修します。</p> <p>第10回：「教員研修」（担当：中神智文） 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を学修します。</p> <p>第11回：「教員の身分・服務」（担当：中神智文） 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について学修します。（中神 智文）</p>			

<p>第12回：「チーム学校」（担当：中神智文） 「チームとしての学校」が求められる背景、及びその内容について学修します。</p> <p>第13回：「教員になるために」（担当：中神智文） 教員の資質能力の向上に関する制度や施策における「採用」の位置付け、また「採用」段階の中核にある教員採用試験の実態と、求められる「教師像」等について学修します。</p> <p>第14回：「全体総括」（担当：中神智文） これまでの講義を振り返り、全体の内容について受講生が相互に意見を交わすことで理解を深めます。これまでの講義内容の理解度を確認するために「レポート」を作成します。</p>
<p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>『新教職概論―改訂新版』（松原岳行、長須正明、小山悦司 他著、学文社、2019年）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『教職論エッセンス―成長し続けるキャリアデザインのために―』（元兼正浩、金子研太 他著、花書院、2015年）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>「履修状況」《50%》、「提出物等・定期試験」（「確認レポート」、「振り返りアンケート」等）《50%》を基に総合的に評価する。</p>

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：楊川、鄭修娟 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代公教育制度の理念・原理・構造について理解し、説明できる。 公教育の目的を実現するための学校経営、教育活動、教職員や学校外の関係者との連携・協働の在り方を理解し、説明できる。 社会変化を理解し、それが学校教育に与える影響とそこから生じる課題、それに対応する教育政策の動向を理解し、説明できる。 学校の危機管理や学校安全の必要性について理解し、説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、公教育の原理、教育行財政、教職員、学校と地域、教育課程等、現代教育に関する多様な制度について、法的観点から基礎的知識を身に付けるとともに、制度に対する歴史的・比較的アプローチも加え、制度理念、制度文化に関しても理解を深める。日本の教育行政にかかわる今日的動向を知るとともに、教育法の構造、法と社会の関係、教育を取り巻く諸条件の整備の在り方等に関する知識を習得し、子どもの教育を受ける権利を支える制度原理を探求することで、教育「制度」に対する理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>授業計画（1コマ100分）</p> <p>第1回：教育制度論ガイダンス 第2回：子どもをめぐる生活変化や教育政策の展開：少子化、いじめ・不登校、子どもの貧困、グローバル化について理解する。 第3回：公教育の原理と歴史：義務性、無償性、中立性、教育を受ける権利について理解する。 第4回：子どもの学習権：子どもの権利条約を歴史と内容を理解する。 第5回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み：文部科学省・教育委員会制度の役割・構造・機能について理解する。 第6回：教育内容行政・教科書制度：教育課程・教科書検定制・学習指導要領について理解する。 第7回：学校制度体系：日本の戦前・戦後の学校制度体系について理解する。 第8回：教職員制度：大学における教員養成・教師の研修権等について理解する。 第9回：特別支援教育制度：具体的な授業場面等を通じて特別支援教育の現状と課題を理解する。 第10回：学校経営制度：公教育の目的を実現するためのスクールリーダーの役割について理解する。 第11回：学校組織：校内組織体制、学校外の関係者(関係機関)との連携・協働（チーム学校、教育福祉）について理解する。 第12回：学校と地域の連携・社会教育制度：学校評議員制度、学校運営協議会制度、大人の学びについて理解する。 第13回：学校安全への対応：学校安全と危機管理、居場所としての学校について理解する。 第14回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育法規エッセンス（最新版）－教職を志す人のために－（元兼正浩 監修、花書院）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>日本型公教育の再検討——自由、保障、責任から考える（大桃敏行 編著、岩波書店）</p>			
<p>学生に対する評価　主に毎回のミニレポート(45%)と定期試験(55%)をもとに評価。</p>			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 拓也 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業の到達目標は、さまざまな教育問題に社会学的な眼差しを向け、その問題事象がいかなる背景やメカニズムを有しているのかなどについて多角的に分析する能力を身につけることである。			
授業の概要 本授業では、学校教育や子どもの現実を直視し、その困難に寄り添い、問題事象を構造的に分析・解釈する教育社会学の手法を理解したうえで、いじめ、貧困、不登校など、従来の教育思想や教育理念の枠組みでは容易に説明・解決されがたい多くの問題に対して「～べきである」（当為）ではなく「～である」（存在）の立場から考察を試みる。そのために、データを読み解く、データを基点とした議論ができる作法の習得を目指す。 教育を読み解く視点として、社会学を用いる。社会学とは、常識を疑って、一歩立ち止まって、それが本当であるか、吟味する学問手法である。そうした視点から、データや歴史的事実、行政の裏側などを知ること、自分が信じていたものとは全く正反対の事象が存在することを理解したとき、自身のこれまでの教育の見方そのものが覆る。そうした経験を、毎回講義内で、文章課題を読み、教員や学生同士でディスカッションを行うアクティブラーニングを行う。 社会学の手法を踏まえつつ、学校教育や子供をめぐる具体的事象（道徳的逸脱行動、情報モラル、教員-保護者関係など）について、学生自身が主体的に考察や議論ができる授業を行う。グループワークや小レポート、文書課題を多く課すので、そのつもりで参加すること。また、クラスで行うディスカッションで、積極的に発言することが必要である。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：オリエンテーション 第2回：学力の獲得は平等なのか？ 第3回：高等教育への進学とジェンダー 第4回：高学歴社会における教育機会と費用負担 第5回：学校に「行っていない」子どもたち 第6回：貧困世帯の子どもたち 第7回：学校の外で学ぶ子どもたち 第8回：「英語は全員が学ぶもの」という自明性を疑う 第9回：部活動は学校において合理的な活動か？ 第10回：子どもの安全・安心を脅かす「教育」 第11回：教育から職業への移行と職業活動 第12回：「いじめ」問題がつくる視角と死角 第13回：少年犯罪についての認識とメディア 第14回：講義のまとめ 定期試験			
テキスト 半径5メートルからの教育社会学（片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編、大月書店）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 受講態度（出席、発言、ミニッツペーパーを含む）20%、期末試験80%の内容を勘案し、総合的に評価する。			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三國 牧子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学の歴史背景、内容を理解し、今まで受けてきた授業と関連付けることを通して、教育活動の中での心理学の有効性に気付き、今後の授業実践に生かそうとする力を高めることができる。 ・学習活動、学校生活を支えるさまざまな心理的要因を理解し、最近の学校現場の状況と関連付けることを通して、生徒の状況に応じた教育相談、危機対応ができるよう学び続ける意識を高めることができる。 			
授業の概要			
<p>本授業では、教育という現象を心理学的に理解できるようになることを目標として教育心理学のさまざまな理論を概観する。その際、単に理論を知識として学ぶだけでなく、過去から現在までに自分が体験してきた教育活動と関連づけて修得できることを目指す。学習過程、動機づけ、知能と学力、教室の仲間関係、教師と生徒の関係、教育評価などの基礎的な知識に加え、学校不適応や個のニーズへの対応などについての理解も目指す。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：ガイダンス：エピソードに学ぶ 教育心理学で学ぶこと			
第2回：思考の育ち：子どもの思考とその発達・認知発達・社会的に構成される知・子どもの考える他者の“心”・発達の“壁”と“飛躍”			
第3回：喜怒哀楽の育ち：・子どもの危機と情動・情動調整の発達・情動の受け取りと理解・情動とつきあう能力・情動体験を支える			
第4回：「わたし」の育ち：・社会化する子ども・コミュニケーションの発達・社会的判断の発達・社会化と「わたらしさ」・ウェルビーイングを支える			
第5回：学びの基礎：・学習とは・ものを覚える・自分の学びを振り返る・「知能」という考え方			
第6回：やる気がでるとき、でないとき：・やる気とは何か・やる気にはたらきかける指導、環境・学習を支える教室構			
第7回：学び方、教え方：・知識と学びの仕組み・個に応じた学びの支援・誤答を学習に活かす・自律した学習者			
第8回：学びの捉え方：・評価の機能・学力評価の歴史・指導に活かす評価・新しい学力とその評価・評価の方法			
第9回：仲間との学び合い：・学び合いで理解が深まるメカニズム・よい学びあいとは何か・仲間との学びあいを促すもの・主体的な学びあいに向けて			
第10回：仲間との関係：・仲間とのかかわりの様相・仲間関係と適応・仲間関係のなかでの育ち・友だちの存在と自己への気づき・仲間関係を支える			
第11回：学びと育ちを支える教室：・学校、教室という場の意義・教師と子どもの人間関係づくり・教室環境を構成する教師の役割・教師と子どもがつくる学級風土、学校文化			
第12回：子どもの困難の理解と支援：・子どもの困難・学校カウンセリングの視点・因果関係を循環的に捉える・システムの視点と対応			
第13回：個のニーズに応じた学び：・学級における教育的ニーズ、個のニーズに応じて支援する・チームで支える・子どもの特性を捉える・特別な教育的ニーズへの支援の実際			
第14回：最新の教育課題：・最近の教育課題の検討			
定期試験			
テキスト			
エピソードに学ぶ 教育心理学（中谷素之、中山留美子、町岳 著、有斐閣ストゥディア）			
参考書・参考資料等 やさしい教育心理学 第5版（鎌原雅彦、竹綱誠一郎 著、有斐閣）			
学生に対する評価 レポート等（アンケートや授業レポート等）の提出等（3割）、定期試験（7割）で成績評価します。			

授業科目名： 学校発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高松 勝也、三國 牧子 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・生まれてから死ぬまでの各発達段階の全体的な様相の理解をはかることで、生徒の実態を客観的に把握することができるようになる。 ・今後自身に生じる発達についての理論的な展望を形成し、よりよい生き方を模索することができるようになる。 			
授業の概要 本講義では、生まれてから死に至るまでの時間の流れの中で、心身がその働きをどのように変化させていくかについて学ぶ。また、発達をどのように導いたり支援したりすることができるかなどについても学ぶ。人間としての発達には、家庭、学校、社会などのさまざまな環境との相互作用の理解が不可欠である。そのため、認知、社会性、感情、自己などの発達について、単に年齢による個人内の変化の表れとして理解するに留まらず、個人と環境の相互作用の歴史として理解し、新たな発達を切り開く視点を持つことも目指す。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：オリエンテーション ヒトとして生まれ、人として生きる： ・発達段階と発達課題（担当：高松勝也） 第2回：発達するとはどういうことか： ・発達観の変化・生涯発達心理学の理論的枠組み・遺伝と環境（担当：高松勝也） 第3回：生命の芽生えから誕生まで： ・生命の芽生え・胎児からはじまる親子のコミュニケーション（担当：高松勝也） 第4回：見て・さわって・感じる： ・ピアジェの発達段階・社会性の萌芽（担当：高松勝也） 第5回：他者との関係を築く： ・乳児—養育者間の初期コミュニケーション・アタッチメントの発達・多様な関係が支える発達（担当：三國牧子） 第6回：「いま」「ここ」をこえて： ・言葉が芽生えるまで・幼児期の言語発達・遊びが広げる子どもの世界（担当：高松勝也） 第7回：自分を知り、自分らしさを築く： ・主体としての自己を知る・幼児は自己をどうとらえているか・自己制御の発達（担当：三國牧子） 第8回：関わり合って育つ： ・心の状態の理解・心の理論のもとづく社会性の発達・仲間の中での育ち（担当：三國牧子） 第9回：思考の深まり： ・子どもと学校・記憶の発達・動機づけ・思考の深まり（担当：高松勝也） 第10回：子どもからの卒業： ・青年期の発達変化・自己に関わる認知の変化・青年期の友人関係、恋愛関係、親子関係（担当：高松勝也） 第11回：大人になるために： ・成人期のはじまり・アイデンティティの発達・職業選択とキャリア発達（担当：三國牧子） 第12回：発達は十人十色： ・発達におけるつまずき・児童虐待とアタッチメントの障害・つまずきの理解と支援に求められる発達の観点（担当：高松勝也） 第13回：個のニーズに応じた学び： ・学級における教育的ニーズ、個のニーズに応じて支援する・チームで支える・子どもの特性を捉える・特別な教育的ニーズへの支援の実際（担当：高松勝也） 第14回：最新の教育課題（担当：高松勝也） 定期試験			
テキスト：問いからはじめる発達心理学（坂上裕子、山口智子 他 著、有斐閣ストゥディア）			
参考書・参考資料等：2020 発達心理学15講（高橋一公・中川佳子編著、北大路出版）			
学生に対する評価：授業の感想の提出等（2割），定期試験（8割）で成績評価します。			

授業科目名： 特別な教育的ニーズの 理解とその支援	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：牛島 大典 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理念・制度・歴史について理解する。 ・インクルーシブ教育システムについて理解する。 ・通級による指導及び自立活動の教育課程上の位置付けと内容を理解する。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 ・特別支援教育コーディネーターの役割、特別支援学校のセンター的機能、関係機関との連携の在り方について理解する。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解するとともに、支援の方法を理解する。 ・視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を習得する。 ・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 			
授業の概要			
<p>特別支援教育について基本的な知識を習得し理解を深めるため、特別支援教育の理念、制度、歴史及びインクルーシブ教育システムを解説する。</p> <p>次に、特別支援教育の教育課程を踏まえて個別の教育支援計画・個別の指導計画を解説する。また、特別支援教育を推進するための特別支援教育コーディネーターの役割、特別支援学校のセンター的機能、関係機関との連携、移行期の支援について解説する。</p> <p>さらに、特別な支援を必要とする障害のある幼児、児童及び生徒の発達・心理的特性・学習の過程・学習上または生活上の困難と支援の方法について解説する。障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：特別支援教育の歴史（最近の動向を含む）			
第2回：特別支援教育の定義、理念、学校・学級・通級による指導の制度			
第3回：インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の推進			
第4回：自立活動の教育課程上の位置づけと目標・内容			
第5回：特別支援学校のセンター的機能と特別支援教育コーディネーターの役割			
第6回：個別の教育支援計画と個別の指導計画の意義と作成・活用			
第7回：知的障害児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法			
第8回：肢体不自由児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法			
第9回：病弱児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法			
第10回：視覚障害児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法			

第11回：聴覚障害児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法

第12回：言語障害児・情緒障害児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法

第13回：自閉症スペクトラム症、学習障害・注意欠陥多動症/ADHD児の発達・心理的特性・学習の過程と支援の方法

第14回：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応

定期試験

テキスト

特別支援教育における「学びの連続性」の理論と実際—特別支援教育の推進からインクルーシブ教育の構築へ—(木船憲幸・阿部敬信・猪狩恵美子・阪木啓二・中村貴志 著、学事出版)

参考書・参考資料等 障害のある子供の教育支援の手引(文部科学省, 令和3年6月)

学生に対する評価：レポート等の提出物や課題 40%、テスト 60%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：楊川、鄭修娟 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学校の「教育課程」について説明し、計画を作成することができる。</p> <p>②自身の社会性を育むとともに、生徒の社会性を育むための活動を計画・実践ができる。</p> <p>③授業中の演習作業等を通じて、他者と協働し創造力を発揮できる。</p>			
授業の概要			
学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程の意義及び編成の方法を理解するとともに、各学校・地域の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を、実際の教育活動に即して学ぶ。			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：「ガイダンス」教育課程とは何か			
・講義計画や講義内容、学校教育において教育課程が有する役割等について説明する。			
第2回：「教育課程の意義」①			
・新学習指導要領の性格及び位置付け、教育課程編成の目的について説明する。			
第3回：「教育課程の意義」②			
・新学習指導要領改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景について説明する。			
第4回：「教育課程の意義」③			
・教育課程が社会において果たしている役割や機能について説明する。			
第5回：「教育課程の編成方法」①			
・教育課程編成の基本原則について説明する。			
第6回：「教育課程の編成方法」②			
・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法について説明する。			
・単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また児童生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性について説明する。			
第7回：「教育課程編成演習（「学校をつくろう！」）」Ⅰ			
・これまでの学修内容を踏まえて、教育課程編成の演習（準備）を実施する。			
第8回：「カリキュラム・マネジメント」①-1			
・「特色ある教育実践例」①についてカリキュラムマネジメントの観点から考察し、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明する。			
第9回：「カリキュラム・マネジメント」①-2			
・「特色ある教育実践例」①についてカリキュラムマネジメントの観点から考察し、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明する。			
第10回：「カリキュラム・マネジメント」②			
・「特色ある教育実践例」②についてカリキュラムマネジメントの観点から考察し、			

<p>カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明する。</p> <p>第11回：「カリキュラム・マネジメント」③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特色ある教育実践例」③についてカリキュラムマネジメントの観点から考察し、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明する。 <p>第12回：教育課程編成演習（「学校をつくろう！」）Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での議論を踏まえ、教育課程編成の工夫について説明する。 <p>第13回：教育課程編成演習（「学校をつくろう！」）Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表を通して、教育課程編成の工夫について説明する。 <p>第14回：「全体振り返り」</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>教育課程エッセンス－新学習指導要領を読み解くために－（元兼正浩 監修、花書院）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校学習指導要領解説 総則編（文部科学省、東山書房）</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編（文部科学省、東洋館出版社）</p>
<p>学生に対する評価 毎回のミニレポート(45%)と定期試験(55%)をもとに評価</p>

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：松原 岳行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校） 大学が独自に設定する科目（高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（中学校）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>○道徳教育の基礎理論や道徳性発達段階説の特質を知るとともに、道徳教育制度の変遷を歴史的に理解し、それらの現代的意義について説明することができる。（知識・理解）</p> <p>○道徳教育に関する基礎知識や学習指導要領の要点を習得し、学習指導案を作成する技能と模擬授業を通じた指導力を身につけることができる。（技能・表現）</p> <p>○道徳教育の制度史や基礎理論を学ぶことによって、現代社会に生きる児童生徒の現状分析やモラル低下現象の打開策などについて積極的に検討する意欲を持つことができる。（関心・意欲）</p>			
授業の概要			
<p>この授業は、教職課程コアカリキュラムにおいて「道徳の理論及び指導法」を必要事項として含むことが求められている「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、暴力事件やいじめ、スマートフォンやインターネット等の利用をめぐるトラブルなど、児童生徒のモラル低下が社会問題となっている中で、道徳教育がいかなる役割を果たすべきかについて多角的に考察することも狙いとしている。具体的には、まず道徳教育の基礎理論や道徳性発達段階説、道徳教育の制度史を概説する。またビデオ教材や学習指導案などを資料にしながらさまざまな道徳教育の実践例を解説するとともに、学生自身も教材研究や指導案を作成したうえで模擬授業を実施する。以上の内容を踏まえ、道徳教育の理論と効果的な道徳教育実践の方法を習得することが本授業の目的である。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：道徳教育論ガイダンス：道徳教育をめぐる今日状況の踏まえつつ、本講義の概要、意義や目的を説明する。</p> <p>第2回：道徳を教育するとは：道徳的知識と道徳的行為のズレの問題に気づかせ、「道徳」を「教育」することの難しさを構造的に理解する。</p> <p>第3回：道徳性の発達：フロイトの精神分析理論とバンデュエラの社会的学習理論を取り上げ、子どもが道徳性を身につけていくプロセスを解説する。</p> <p>第4回：認知発達理論：規則意識としての道徳性発達理論を唱えたピアジェの学説を中心に、認知発達理論としての道徳論の特徴を概説する。</p> <p>第5回：コールバーグの道徳性発達段階説①：ジレンマ教材の体験活動を通して、3水準6段階からなる道徳性発達段階説の特質を詳しく解説する。</p> <p>第6回：コールバーグの道徳性発達段階説②：コールバーグ道徳性発達段階説の実践活用例に目を向け、その意義や問題点などを総括的に論じる。</p> <p>第7回：道徳的社会化論：フランスの社会学者デュルケムの理論に注目し、道徳の二面性、他律と</p>			

自律の問題を考える。

第8回：日本の道德教育：制度編①：「教育勅語」や「修身」の時代から「道德の時間」の特設、さらには道德の教科化にいたるまで、我が国の道德教育の制度史を概観する。

第9回：日本の道德教育：制度編②：「特別の教科 道德」の意義を理解するとともに、『学習指導要領』（道德編）を資料にしながら道德教育の内容や方法、取扱い上の注意点などを確認する。

第10回：日本の道德教育：実践編①：「道德の時間」や「道德科」の実践例をもとに道德資料の活用法を紹介する。

第11回：日本の道德教育：実践編②：「道德科」を想定した教材研究の方法および実践例について解説する。

第12回：日本の道德教育：実践編③：学習指導要領の記載内容を踏まえたうえで学生自身が学習指導案を作成する。

第13回：日本の道德教育：実践編④：学生自身が作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、生徒役の学生が評価表に記入するなどして模擬授業の達成度と課題をフィードバックする。

第14回：授業の振り返りと総括：「道德的行為者」としての教師のあり方について考え、道德教育に携わる者の心構えについて多角的に議論する。道德教育論の講義全体を振り返り、学生自身が学んだことを再確認する。

定期試験

テキスト：道德教育論 テキスト&ノート（松原岳行 著、九州産業大学教職課程）

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道德編（平成29年7月、文部科学省）

学生に対する評価：受講態度15%、レポート15%、期末試験70%の割合で、到達目標への達成度を総合的に評価する。

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：楊川、鄭修娟 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>○総合的な学習の時間と特別活動の教育的意義を学び、まずそれらが日本の教育課程においては主要部を構成するものであることを理解することを第1の目標とする（知識・理解）</p> <p>○探究的な見方・考え方を身につけ、テーマ学習、横断的な学習についてのイメージを膨らませることができるようになること（思考・判断）</p> <p>○コミュニケーションスキルを磨き、総合的な学習の時間、特別活動を進めることのできる教師としての実践的指導力の基礎を培うことが目標である（技術）</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、総合的な学習の時間と特別活動の教育課程における位置付けを把握し、学習指導要領に基づいて目的、意義、内容、方法に関する基礎的な理解を深めるとともに、その実践的な指導力を身に付けることを目的とする。探究的な見方・考え方を働かせた横断的・総合的な学習の具体的な例を学び、そして集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組むことの意義を具体的な実践例を取り上げながら理解し、さらに演習を通して実践的指導力を身に付けていく。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：「総合的な学習の時間」の設置背景と実践の現状把握</p> <p>第2回：「総合的な学習の時間」のねらいと教育課程への位置づけ</p> <p>第3回：「総合的な学習の時間」のテーマ設定と各教科・他領域との関連</p> <p>第4回：「総合的な学習の時間」の年間計画指導計画・単元計画の作成</p> <p>第5回：「総合的な学習の時間」の評価について</p> <p>第6回：「総合的な学習の時間」に関する模擬授業</p> <p>第7回：総合的な学習の時間に関する総括討議</p> <p>第8回：特別活動とは何かー教育課程における「特別活動」の位置ー</p> <p>第9回：日本における「特別活動」の変遷と「特別活動」の目標</p> <p>第10回：学級活動(ホームルーム活動)と人間形成 学級の目標、具体的な内容について理解する。</p> <p>第11回：生徒会活動と人間形成 生徒会活動の意義を理解し、実践的課題を探求する。</p> <p>第12回：学校行事と人間形成 学校行事の意義を理解し、具体的実践例からその課題を考察する。</p> <p>第13回：特別活動の評価について</p> <p>第14回：特別活動に関する指導案作成と模擬授業、総括動議</p>			
定期試験			
テキスト：特別活動エッセンス 総合版（元兼正浩 編著、花書院）			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編（文部科学省、ぎょうせい） 高等学校学習指導要領解説 総則編（文部科学省、東山書房） 学習指導要領（特別活動、総合的な学習（探究）の時間）			
学生に対する評価：授業の受講態度、毎回のミニツッペーパー（出欠を兼ねる）やレポート、グループ活動への取り組み60%、試験の結果40%を勘案し、総合的に評価する。			

授業科目名： 教育の方法・技術（情 報通信技術を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：楊 川、鄭 修娟 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>○高度情報化社会に生きる児童生徒の資質・能力を効果的に育成するうえで必要不可欠な教育の方法論及び教育評価の理論を学び、それらの基本的特質や意義を説明することができる。（知識・理解）</p> <p>○教育の目的に適した指導技術の意義を理解し、話法・板書・学習指導案の作成・発問スキル・情報機器の活用方法・情報モラル・教材開発力などの教育技術を習得することができる。（技能・表現）</p> <p>○教師にとって欠かすことのできないコミュニケーション能力をみずから積極的に磨くとともに、教師としての適性を常に厳しく審問し、向上心を持って授業に臨むことができる。（関心・意欲）</p>			
授業の概要			
<p>この授業は、教職課程コアカリキュラムにおいて「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」を必要事項として含むことが求められている「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、その大きな目的は、これからの社会を担う児童生徒の育成に欠かせない教師としての基本的スキル＝「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」を身につけることである。本授業では、より具体的に学校の教育現場を想定して、受講者全員が、指導案の作成や模擬授業、近年展開されている多様なメディアを用いた実践事例に実際に取り組む。こうした経験を繰り返し、効果的な板書や発問、指導案作成、評価方法といった実践に役立つ方法・技術を身につけていく。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
<p>第1回：オリエンテーション： 受講上の注意と成績評価基準を確認するとともに、本講義の目的と情報通信技術を活用する意義を理解する。</p> <p>第2回：教育の方法・技術とは何か： 教育方法(学)の歴史・教育の方法としての「教師」という存在と、高度情報社会における情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。</p> <p>第3回：「反省的实践家」としての教師： グループワークを通じて教育の理論と実践の関係について理解する。</p> <p>第4回：「主体的・対話的で深い学び」での教師の役割： グループディスカッションを通じてファシリテーターとしての教師の役割について、情報通信技術の活用を含め理解する。</p> <p>第5回：効果をあげるための板書・発問の方法と技術： 板書の意義と留意点、情報通信技術の活用効果的な発問の実践、情報通信技術・デジタル教材の活用について理解する。</p> <p>第6回：情報技術を用いた学習指導の方法・技術： 「深い学び」を実現するための効果的なICT技術の活用について議論する。</p> <p>第7回：学習指導の方法と技術（1）： パソコンを用いた各教科の学習指導案を作成、デジタル教材の活用を体験する。</p>			

<p>第8回：学習指導の方法と技術（2）： プレゼンテーションソフトの活用法、情報通信技術を活用した授業実践例、情報モラルの重要性について理解する。</p> <p>第9回：教育評価の方法と技術（1）： 教育評価の意義と目的、多様な評価方法とその特質を理解する。</p> <p>第10回：教育評価の方法と技術（2）： グループワークを通じて、多様な評価の実践例について議論し、理解する。</p> <p>第11回：マイクロティーチングの方法と技術（1）： マイクロティーチングの意義とその概要を情報通信技術の活用を含め、理解する。</p> <p>第12回：マイクロティーチングの方法と技術（2）： マイクロティーチングのための指導案作成・実践、特別活動、道徳の時間の実践とフィードバック（情報通信技術の活用を含む）を行う。</p> <p>第13回：現代社会に求められる様々な教育の方法と技術： 遠隔授業・オンライン教育の意義、主体的・対話的で深い学びの実践、情報通信技術を活用した校務のあり方を理解する。</p> <p>第14回：総括： 教師としての適性を自己評価し、教育実習に向けた具体的な心構えを持つ。</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト なし</p>
<p>参考書・参考資料等 教育実践の方法・技術（九州産業大学教職実践研究会編）</p> <p>【総則編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説</p> <p>【総則編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説</p>
<p>学生に対する評価： 受講態度20%、各課題・定期テスト80%の割合で、到達目標への達成度を総合的に評価する。</p>

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤 勝宣
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>生徒指導及び進路指導・キャリア教育の基本的な考え方や理論を理解し、それを基礎として実際の具体的な場面で指導できるようになることが授業の到達目標である。そのために、『生徒指導提要』や『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』に示されている基本的な概念や考え方、また、それらの多様な領域における生徒指導・進路指導の役割や内容、さらに学校現場における具体的な指導法といった内容が授業のテーマになる。</p>			
授業の概要			
<p>まず第一に、『生徒指導提要』や『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』に示されている基本的な概念や考え方を講義する。次に、多様な領域における生徒指導・進路指導の役割や内容を説明し、ともに考える。さらに、学校現場における具体的場面における指導法を考え実践してもらう。授業形式としては、適宜、アクティブ・ラーニングを取り入れる。</p>			
授業計画（1コマ100分）			
第1回：生徒指導の基礎			
第2回：生徒指導と教育課程			
第3回：児童生徒の心理と児童生徒理解、及び教育相談			
第4回：児童生徒全体への指導：チーム学校と生徒指導体制を中心に			
第5回：個別の課題に対する生徒指導：いじめ、不登校、インターネット等の課題を中心に			
第6回：生徒指導に関する法制度等、及び学校と家庭・地域・関係機関との連携			
第7回：進路指導・キャリア教育の意義や原理（1）：これまでの経緯・定義・目標、及び学習指導要領と教育課程における位置づけを中心として			
第8回：進路指導・キャリア教育の意義や原理（2）：指導計画の作成、家庭や地域等との連携及び評価を中心として			
第9回：ガイダンスとしての進路指導・キャリア教育			
第10回：キャリア発達と個に応じたキャリアカウンセリングの方法			
第11回：場面指導（1）いじめ			
第12回：場面指導（2）不登校			
第13回：場面指導（3）進路指導面談			
第14回：まとめと発展的探究			

定期試験
テキスト 文部科学省『生徒指導提要』（2022年） 文部科学省『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』（2023年） 改訂された場合は最新版を使用する。
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成29年告示） 総則編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示） 総則編』 改訂された場合は最新版を使用する。その他の参考書・参考資料等は授業中に適宜指示する。
学生に対する評価 定期試験（70%）および場面指導への取り組み等（30%）で総合的に評価する。

授業科目名： 教育相談の方法・技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高松 勝也、三國 牧子 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育相談の意義、内容、課題について理論的理解を深めることを通して、教育相談の実際場面をイメージすることができる。 ・教育相談の実践的な指導法について体験的に学ぶことで、実際に活用できる力を身につける。			
授業の概要 教育相談の方法・技術を学ぶことを通じて、「児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図る」ために必要な能力の獲得を目指す。その際、カウンセリングの理論や技法などについても学び、実践を視野に入れた資質向上を目指す。			
授業計画（1コマ100分） 第1回：ガイダンス・教育相談とは【担当：高松勝也】 ・教育相談の必要性と意義 ・教育相談に携わるさまざまな立場と役割 ・教育相談の段階的な取り組み ・教育相談が必要な機会と手段 ・教育相談における課題解決にあたっての留意点 第2回：カウンセリングの理論【担当：三國牧子】 ・カウンセリングとは、どのようなものなのか？ ・カウンセリングに関する各種理論 ・教師がカウンセリングに携わるには 第3回：カウンセリングの技法【担当：三國牧子】 ・教育相談の実践とカウンセリング技法 ・非言語的コミュニケーション技法 ・質問の技法 ・反映技法 ・その他のカウンセリング技法 第4回：教育相談におけるアセスメント①（行動観察法・面接法）【担当：三國牧子】 ・アセスメントとは ・行動観察法 ・面接法 ・方法論としての面接法 ・行動観察や面接で子どもの何を見取るのか 第5回：教育相談におけるアセスメント②（心理検査法の理解）【担当：高松勝也】 ・心理検査とはどのようなものか ・心理検査の種類・心理検査を実施する前に行っておくべきこと ・環境の調整・検査結果のフィードバックと活動の留意点 第6回：学校における諸課題とその対応（心の病への対応）【担当：高松勝也】 ・児童期に生じやすい心の病 ・青年期に生じやすい心の病 ・ストレスの理解 ・児童期～青年期に多くみられる心の病気 第7回：ストレスマネジメント教育の理論と実際①【担当：高松勝也】 ・ストレスマネジメントとは ・ストレスマネジメント教育の実践例 第8回：ストレスマネジメント教育の理論と実際②【担当：高松勝也】 ・心を落ち着けるプログラムの演習 ・危機対応のストレスマネジメント教育 第9回：ソーシャルスキルトレーニング（SST）の理論と実際【担当：高松勝也】 ・SSTとは ・SSTの演習 第10回：構成的グループエンカウンター理論と実際【担当：三國牧子】			

<ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンターとは ・構成的グループエンカウンターの演習 <p>第1 1回：社会性と情動の学習（SEL8-S）の理論と実際【担当：高松勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会性と情動の学習（SEL8-S）とは ・SEL8-Sプログラムの演習 <p>第1 2回：学校における諸課題とその対応（いじめ・不登校）【担当：高松勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの現状・いじめの集団要因 ・いじめ加害者の理解と対応 ・いじめ被害者の理解と予防教育 ・不登校の現状 ・不登校に関する生徒指導の重層的支援 ・不登校の支援 <p>第1 3回：学校における諸課題とその対応（虐待、自殺）校内連携・専門機関や地域との連携【担当：高松勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待とその対応 ・子どもの自殺とその対応 ・「チーム学校」と連携について ・コンサルテーション ・専門機関や家庭・地域との連携 <p>第1 4回：講義のまとめ—これからの教育相談【担当：高松勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる課題 ・教師のメンタルヘルス ・教育相談が目指すもの <p>定期試験</p>
<p>テキスト 教育相談 [第2版] (よくわかる! 教職エクササイズ) (森田健宏 監修, 編集, 田爪宏二 監修, 吉田佐治子 編集, ミネルヴァ書房)</p>
<p>参考書・参考資料等 なし</p>
<p>学生に対する評価レポート等 (アンケート、授業レポート等) の提出等 (3割), 定期試験 (7割)</p>

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）	単位数：2単位	担当教員名： 高松 勝也、松原 岳行、中神 智文、楊 川
科 目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) <input type="radio"/> 学校現場の意見聴取(※2) <input type="radio"/>
受講者数	約100人	
<p>学生の取得予定免許ごとに適正規模のグループ(20人程度)に分割し、それぞれに主たる担当教員をあて指導する。</p>		
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>各学部の教科科目担当者と教職科目担当者の連携を強化し、事前にワーキンググループなどを設置し、教職科目担当者と実践演習を進める上での諸問題を検討する。こうした一連の検討を通して、フィールドワークや模擬授業実践が有意義なものになるよう努力するとともに、演習の効果が最大限発揮されるよう配慮する。</p>		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育実習を振り返り総括するとともに、これまで履修してきた教科に関する科目及び教職に関する科目で学んだことを実践という視点から振り返り、単なる知識ではない実践可能なものとして再構築できることを目標とする。そのため、学校現場における教育実践の観察やグループ討論、フィールドワークを通じた新たな学びや発見、模擬授業などの実技指導やロールプレイング、自身の対人関係能力・生徒理解能力・学級経営力についての省察を行う。それらの演習を通じ、教員として最小限必要な資質能力の修得が出来ることを目指す。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>教職実践演習は、これまで履修してきた教科に関する科目及び教職に関する科目の学修をもとに、教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものである。そのため、実際の学校現場での授業観察や実技指導、ロールプレイングなどを通じ、これまでの学修を活かした学級経営や授業展開が可能となっているかについての省察を行う。また、グループ討論やフィールドワークによる学びや発見を通じ、自身の対人関係能力、生徒理解能力、学級経営力についての省察も行う。それらの演習を通じ、教員として最小限必要な資質能力の修得を目指す。</p>		
<p>授業計画(1コマ100分)</p> <p>第1回：ガイダンス 教職実践演習の実施についての目的と概要、留意事項について説明を行う。</p> <p>第2回：これまでの振り返りと今後の課題の設定1 履修カルテを用いたこれまでの履修状況の把握や学生同士のディベートなどを通じ、これまで教職課程や教育実習で学んできたことを振り返る。</p> <p>第3回：これまでの振り返りと今後の課題の設定2 他者との意見交換を通じて自身のまだ学べていない点について気づき、本授業において学ぶべき課題を明確化する。また、学校訪問のガイダンスも行う。</p> <p>第4回：フィールドワークA(学校訪問)1 学校訪問を実施し、授業参観や現職教員との研究協議会などを実施することで教育現場の観察を行う。特に、ICTの活用事例を注視し、それらの活動を通じて、1校での経験に留まらざるを得ない教育実習での教育現場体験を相対的にとらえ直すことを目指す。</p> <p>第5回：フィールドワークA(学校訪問)2 フィールドワークA(学校訪問)1での学習をもとに、これまでの教職課程での学び(ICTの活用度を含む)を教育現場へ適用する際の課題について理解する。</p> <p>第6回：模擬授業を通じた教育法の確認1</p>		

教育実習で良い評価を得られた授業を、ICTを活用して模擬授業形式で再現する。その後、グループ単位での意見交換などを通じ、教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり、ICTの活用度、互いに協力し合う姿勢を育む指導法を身につけているかを確認する。

第7回：模擬授業を通じた教育法の確認2

自身の行った授業と他者の行った授業との違いを確認し、ICTの活用度を含め、自身の授業の省察につなげる。

第8回：教師の社会性と対人関係能力1

学校組織、学級で必要とされる社会性や学級経営能力、児童生徒の理解能力について、ロールプレイングなどのワークを通じて理解する。

第9回：教師の社会性と対人関係能力2

社会人としての基本（挨拶や言葉遣いなど）が身につけているか、保護者や地域との連携・協力の重要性を理解しているかを把握する。

第10回：フィールドワークB（学校見学）1

学校訪問を実施し、授業参観や現職教員との研究協議会などを実施することで教育現場の観察を行う。フィールドワークAの見学とは訪問校を変え、複数回の学校見学を経ることでより相対的にとらえ直すことを目指す。その際、ICTの活用度を含めて教育現場を観察し、研究協議会などを実施する。

第11回：フィールドワークB（学校見学）2

フィールドワークB（学校見学）1の体験をもとに、学級経営に必要とされる資質の中で、現在特に課題のある箇所（ICTの活用度を含む）について体感する。

第12回：優れた教育実践についての理解促進1

現職教員や教育委員会から招いた講師の講演を聴講し、優れた教育実践について学ぶ。

第13回：優れた教育実践についての理解促進2

複数の講演を聴講した後、それらを元にした質疑応答や討論を行うことで、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務などを理解しているか確認し、自分自身に結びつけた総合的な知識の獲得を目指す。

第14回：これまでのまとめと振り返り

これまでに学んできたことを、グループ単位で話し合うことで自身の学びと他者の学びを比較し、自己の成長を相対的に理解し、有機的・総合的な学びとなることを目指す。

テキスト なし

参考書・参考資料等 授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

教職の意義、指導法、生徒指導、学級経営、学校組織などに対するある程度の理解がなされ、現場において他の先生方からの指導助言をもとに実践が可能な段階にあるかで評価する。また、講義の聴講態度にとどまらず、グループ討論やロールプレイングへの積極的参加の度合い、フィールドワークでの意欲的関わり方、模擬授業の完成度などを総合的に判断する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。